

ANNUAL REPORT

2006 – 2007

No. 30



Department of Social Systems and Management
Graduate School of Systems and Information Engineering
University of Tsukuba

まえがき

システム情報工学研究科（博士後期課程）社会システム・マネジメント専攻は，社会問題（経済，経営，都市地域等に関わる諸問題）を工学的（分析的，数理的，計量的）な問題発見手法とアプローチによって解明し，政策のおよび計画的な意味合いを見出す，という研究上の共通目標を持った研究・教育者の組織である。各構成員は，国内および国際的に求められる質の高い研究成果を挙げるように，また良き教育者であるよう努めている。

平成 18 年度（平成 18 年 4 月 1 日現在）の社会システム・マネジメント専攻の教員は，教授 29 名，助教授 23 名，講師 19 名の計 71 名である。現在，社会システム・マネジメント専攻に所属している教員の平成 18 年度中の研究・教育活動は以下のようにまとめることができる。

(1) 研究活動と国際交流

社会システム・マネジメント専攻の研究活動は，平成 18 年度も全分野（社会経済，経営工学，都市計画）にわたって活発に展開された。国内外論文・著書発表数，国内外学会発表数は堅調であり，多くの教員は審査付きの国際的な学術誌への論文投稿・登載のために努力した。また，積極的に競争的研究資金の獲得に努め，科学研究費補助金等も着実に採択されている。文部科学省高等教育局大学振興課から平成 18 年度「先進的・大学改革推進委託事業」の一環として筑波大学に委託された「博士課程『短期在学コース』の創設に係わる課題等に関する調査研究（大学等における早期修了制度等の活用実態分析及びそのニーズに関して）」を実施した。

国際交流協定は，専攻として責任を持っているものが，清華大学（中華人民共和国），漢陽大学（大韓民国），南オーストラリア大学，南オーストラリア・フリンダース大学，アデレード大学（以上，オーストラリア連邦），ウィーン経済・経営大学（オーストリア共和国）の 6 協定であり，中国科学院研究生院（中華人民共和国）との協定に参加している。これらの大学・研究機関とは，若干名ながら研究者および学生の交流・交換が継続されている。外国人研究者の受け入れと教員の海外派遣は極めて多く，国際的な研究交流が盛んであることが示された。

(2) 教育と人事

社会システム・マネジメント専攻からの教員が，本専攻に加えて関連する教育組織は，第三学群（現在は理工学群に再編）の社会工学類，システム情報工学研究科博士前期課程の経営・政策科学専攻，社会システム工学専攻，および修士課程環境科学研究科（現在は生命環境科学研究科環境科学専攻に再編）である。近年の複雑・多様化した社会の要請に応えることができる斬新なカリキュラム展開を目指して，本専攻および経営・政策科学専攻，社会システム工学専攻においては，現行カリキュラムの全面的な見直しを行い，新体系に基づくカリキュラム計画の策定を実施した。

社会システム・マネジメント専攻は教員の流動性が高く、それに伴い採用・昇任人事が経常的に行われてきた。そこでは、審査付き学术论文を重視した業績評価を基礎とし、一部実務経験を加味して、開かれた透明な審査に努めてきた。しかし、モビリティの高さは、人事に投入する労力の多さも意味しており、優秀な人材の確保維持のためには、継続した努力が必要である。

本専攻の教員は、様々な研究分野・職歴・国籍を持つ。多様な教員間の活発な交流が、相乗効果により研究成果の向上をもたらすことを期待する。本専攻の更なる成長のためには、研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し、中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。また、専攻業績の定期的な記録と自己評価により、専攻教員活動の社会的説明責任を果たさねばならない。本報告書がそのような課題に対応するための資料を提供し、構成員および関係者の意識向上に貢献できれば幸いである。

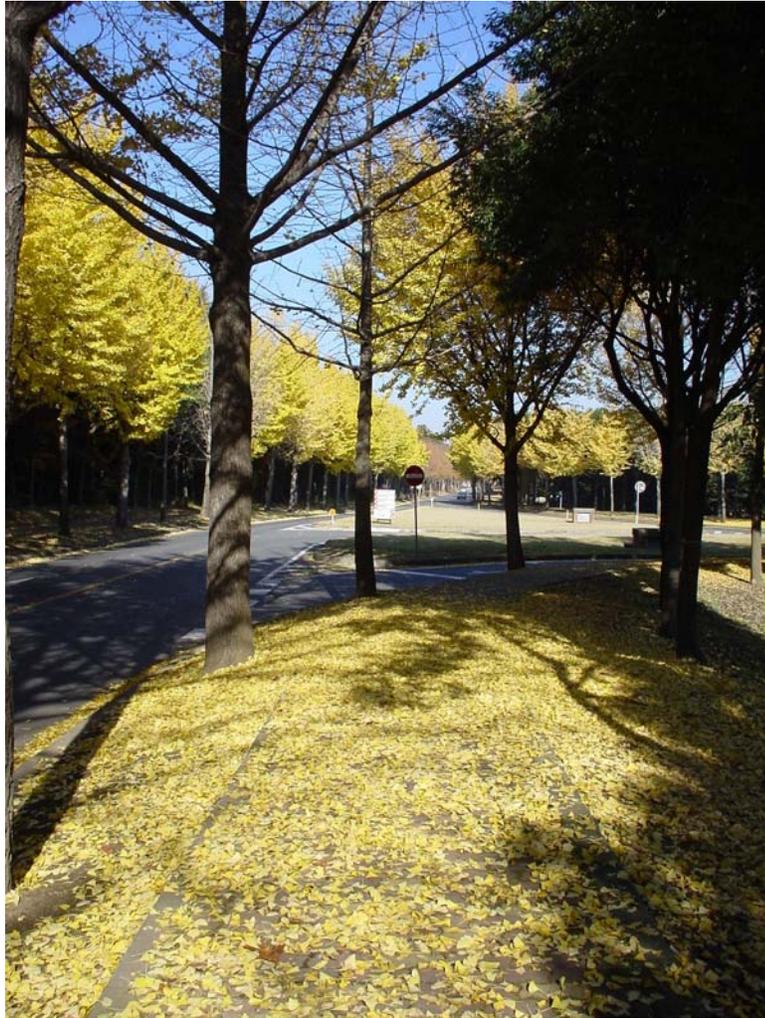
平成 19 年 4 月 1 日

社会システム・マネジメント専攻長
香田 正人

目次

I.	概要	1
I-1	沿革	3
I-2	組織構成と専攻および関連組織	4
II.	教員一覧	5
III.	研究活動	12
III-1	科学研究費・学内プロジェクト	14
III-2	受託研究・奨学寄付金	17
IV.	各教員研究・教育活動	22
	教授	24
	助教授	62
	講師	92

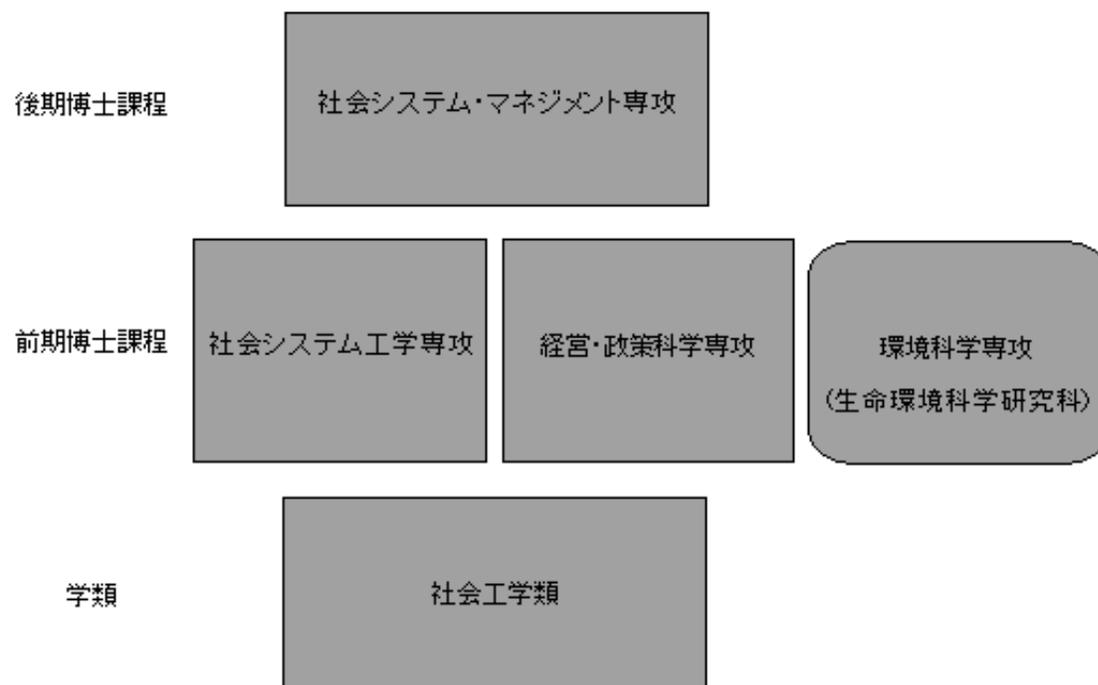
I. 概要



I-1 沿革

- 昭 38. 9 研究学園都市を筑波地区に建設することを閣議了解
- 昭 45. 5 筑波研究学園都市建設法成立
- 昭 47. 5 筑波新大学(仮設)など 42 機関を閣議決定
- 昭 48. 10 筑波大学設置
- 昭 50. 4 社会工学系発足
社会工学研究科 計量計画学専攻(博士課程) 発足
- 昭 51. 4 経営・政策科学研究科 経営・政策科学専攻(修士課程) 発足
- 昭 52. 4 第三学群社会工学類発足
環境科学研究科(修士課程) 発足
- 昭 53. 4 社会工学研究科計量計画学, 都市・地域計画学専攻(博士課程) 発足
- 昭 54. 4 社会工学研究科経営工学専攻(博士課程) 発足
- 昭 56. 3 社会工学類第一回生卒業
- 昭 58. 4 第三学群国際関係学類発足
- 平 1. 4 経営・政策科学研究科 経営システム科学専攻(夜間修士課程, 大塚地区) 発足
- 平 4. 4 国際政治経済学研究科(博士課程) 発足
- 平 8. 4 経営・政策科学研究科 企業科学専攻(夜間博士課程, 大塚地区) 発足
- 平 9. 4 社会工学研究科 計量ファイナンス・マネジメント専攻新設,
社会経済システム, システム情報数理, 都市・環境システム専攻に改組再編
- 平 12. 4 システム情報工学研究科 社会システム工学専攻(博士課程, 社会経済システム,
システム情報数理, 都市・環境システム分野),
計量ファイナンス・マネジメント専攻(博士課程) 発足
- 平 13. 4 ビジネス科学研究科 経営システム学科, 企業法学,
企業科学専攻(夜間・前後区分制博士課程, 大塚地区),
システム情報工学研究科 リスク工学専攻(博士課程) 発足
- 平 16. 3 総合研究棟 B 竣工(リスク工学専攻の教員 5 名が移転)
- 平 16. 4 筑波大学が国立大学法人に
システム情報工学研究科が部局化(人事, 予算, 施設を所掌)
学系は組織評価・企画提言を行なう組織に
- 平 17. 4 社会システム工学専攻(博士課程) が社会システム工学専攻(前期修士課程) と
社会システム・マネジメント専攻(後期博士課程) に改組
経営・政策科学研究科(修士課程研究科) が経営・政策科学専攻(前期修士課程)
に改組

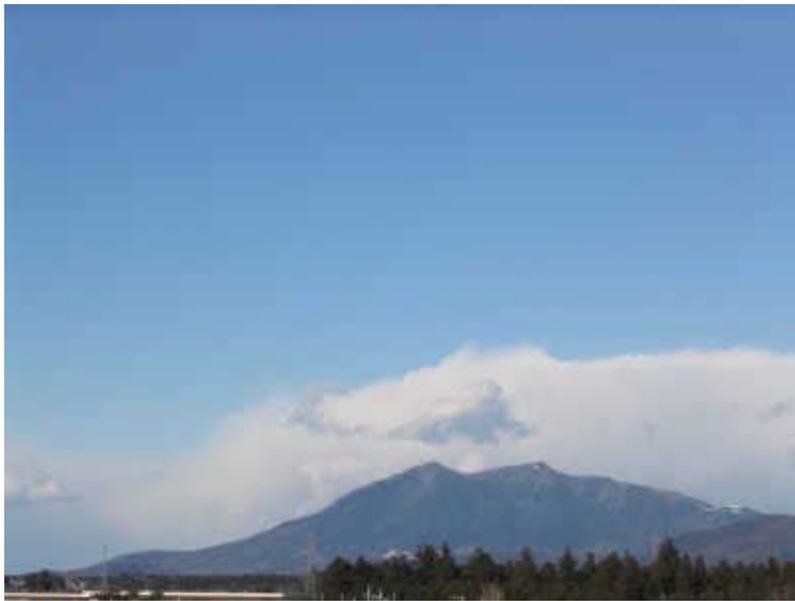
I-2 組織構成と専攻および関連組織



関連組織: リスク工学専攻、産学リエゾン共同研究センター

II. 教員一覽

(平成18年4月～平成19年9月)



教授

氏名 / 職名	専門分野	研究内容
浅野 哲	計量経済学 ミクロ計量経済学	個人の経済行動のデータから選好のパラメータを推定する手法の開発と応用
石田 東生	都市交通計画 社会基盤施設計画 交通需要予測	都市公共交通政策, 交通施設整備政策の変遷, 交通計画策定プロセスにおける評価とパブリックインボルブメントの可能性と方法
大澤 義明	都市計画 地域科学	立地論, 地域的競争, 投票と地域計画
大村 謙二郎	都市計画 都市計画史	土地利用計画, 計画制度, 都市計画史
小場瀬 令二	都市環境デザイン	環境共生住宅, 地域重視型住宅, フィンランドの都市計画, まちづくりとワークショップ
金澤 雄一郎	統計学 データ解析	一般化線形モデル, 欠損値を含んだデータの解析
金子 守	ゲーム論 認識理論 理論経済学	ゲーム論の基礎と応用, 認識と経験, 住宅市場
岸本 一男	数理工学	数理ファイナンス, デジタル幾何, 数理政治学
香田 正人	システム科学 応用数理解析 データマイニング工学	システム最適化, 感度解析, ニューラル・ネットワーク, 機械学習等の理論的研究と, それらの技術のデータマイニングや発見科学への応用
腰塚 武志	都市工学 積分幾何学	都市の物的構造を数理的に明らかにすること, 積分幾何とその応用, 移動からみた都市構造の分析
佐藤 亮	経営システム工学 システム科学	経営情報システム, 離散事象システム, ビジネスプロセス工学, 一般システム理論
庄司 功	応用時系列解析	ダイナミカルシステムモデルの推定
住田 潮	確率過程・応用確率論 情報システム マルチメディア・ネットワーク, ファイナンス, マーケティング, 国際経営比較	確率計算アルゴリズム, 情報通信ネットワークの評価・解析, 日米経営比較, オプション価格の計算法, POS データ解析

教授		
高木 英明	通信ネットワーク 確率モデル 待ち行列理論	マルチメディア情報通信ネットワークの 性能評価モデル
土井 正幸	地域経済学 交通経済学	発展途上国交通経済論, 港湾経済論, 国際 物流論, 開発経済学, 地域経済発展とイン フラストラクチャ整備, を含む
中村 豊	意思決定理論	不確実性下の意思決定の理論的基礎とそ の応用
橋本 昭洋	社会システム 評価・決定論	社会システム分析, 公共部門意思決定, 評 価・決定方法論, 非画一的総合評価
藤井 英次	国際金融論 国際経済学	相対物価・為替レートのダイナミックス, 財・資本市場の国際統合
藤原 良叔	組合せ理論とその応用	組合せ理論 / 離散数学とその情報科学や 統計学への応用
星野 靖雄	経営管理論 経営財務論 国際経営論	企業合併の計量分析, 合併企業の行動分 析, 日本的経営論
松田 紀之	認知心理学 情報デザイン	感性的判断支援と分析, ブランドイメー ジ, リスク認知, セマンティックインター フェイス
焼田 党	マクロ経済学 公共経済学	マクロ経済モデルと税, 公共支出など政 策効果の研究
山本 芳嗣	数理計画	均衡点問題とそのアルゴリズム, 大域的 最適化
吉田 あつし	都市経済学 空間統計学 応用計量経済学 医療経済学	標準雇用大都市圏の形成と集積の経済, 地 域間交易の経済統計モデル, 空間計量経済 モデルの開発地域医療・介護保険制度と ティプー仮説の検証, 医療保険制度の改 正と医療サービスの需要及び供給の分析
吉田 雅敏	財政学 公共経済学 経済成長論	税, 公共投資などの財政学における基本 問題の研究

助教授

氏名 / 職名	専門分野	研究内容
秋山 英三	ゲーム理論 力学系	限定合理性, ゲームにおける時間構造についての研究, 進化ゲーム
有田 智一	地域科学 都市計画	産業集積, 都市・地域政策, 都市計画制度
石井 健一	コミュニケーション 情報社会	海外の日本番組, 情報機器の普及と採用, 移動体通信の利用行動
江口 匡太	労働経済学	労働契約の理論, 労働法の経済分析
太田 充	地域科学 都市経済学 都市計画	空間経済システムの自己組織化及び構造変化
岡本 直久	交通計画 観光計画	社会資本整備のもたらす効果の計測, 観光交通の調査及び需要推計方法
繁野 麻衣子	数理計画 組合せ最適化	組合せ最適化問題に関する算法の開発
鈴木 秀男	応用統計 品質管理	統計的手法と機械学習法の開発, その品質管理と商品企画への応用
TURNBULL, Stephen John	ゲーム論 情報経済 実験経済	インターネット経済(設備・システム組織; 電子商業), オープンソースソフトウェアの経済的環境
高橋 正文	派生証券評価 金融リスク管理	金融資本市場の価格評価, 価格変動解析, VaRを中心とする市場リスク管理手法の研究
張 勇兵	分散システム 通信ネットワーク 性能評価	分散システムにおける資源の最適配分, 移動通信システムにおける資源管理, 光ネットワークにおける波長ルーティング及び論理ネットワークの構築
堤 盛人	地理情報科学	空間回帰モデル, 空間内挿, 地理情報システム, 不動産情報管理
永易 淳	国際金融 金融ファイナンス 計量経済	金融資産価格の変動と予測の分析
原嶋 耐治	日本経済論	日本経済の直面している諸課題に関する研究
藤川 昌樹	日本建築史・都市史	日本の近世・近代都市史研究, 農村の建築ストックに関する研究

助教授		
三橋 平	マクロ組織行動論	組織間関係と組織バウンダリー
繆 瑩	組合せ論、離散数学 符号理論、暗号理論、通信 方式	情報通信や情報セキュリティのための組 合せ論的手法の開発
吉瀬 章子	数理計画 オペレーションズ・リサー チ	線形・非線形最適化問題に対する効率の よい算法の開発
吉野 邦彦	リモートセンシング 地域環境工学	衛星リモートセンシングデータによる土 地被覆・土地利用解析, 地表面の方向性分 光反射特性の解析とモデル化
渡辺 俊	建築・都市計画 設計学	マルチメディア社会における都市計画・ 建築計画, 知的設計支援システムの設計・ 開発
渡辺 真一郎	組織行動論	組織における人間行動を規定する状況要 因と心理学的個人差要因の間の相互作用 過程に関する研究

講師		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
有馬 澄佳	コンピューターデバイス 生産管理 オペレーション管理	半導体生産システム管理, サプライチェーンマネジメント, ロジスティクス, PLM など
石川 竜一郎	ゲーム理論 ミクロ経済学	意思決定における認識の役割, 経験による社会観の形成, 非対称情報下の市場分析
上市 秀雄	意思決定論 認知心理学 社会心理学	意思決定における個人差, 感情が意思決定に及ぼす影響
大久保 正勝	マクロ経済学 計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究, 時系列計量経済学の応用
奥島 真一郎	環境経済学 政策分析	環境・エネルギー政策分析, 不平等分析, 分解手法の開発
後藤 順哉	数理計画 (連続最適化) 金融最適化	数理計画の金融への応用 & 解法の研究 大域的最適化
近藤 文代	時系列解析 統計解析 マーケティングデータ分析	ビジネスにおける時系列データ解析および解析手法の開発
斎尾 直子	建築計画 都市・農村計画	小学校 - 大学と生涯学習施設等の地域拠点施設計画, 都市-農村の居住環境整備のための地域社会計画
新谷 由紀子	科学技術政策	産学連携研究, 技術移転論, 研究と倫理, 知的財産とその権利主体
八森 正泰	離散数学 組合せ論	トポロジ-的組合せ論, 離散数学におけるトポロジ-的手法, およびその応用
原田 信行	中小企業経済学 計量経済学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析, 日本経済・産業の実証分析, 計量経済学
藤井 さやか	都市計画 まちづくり法制 住環境整備	都市計画制度の体系的運用方策の検討, 地区レベルのまちづくりに関する研究
水野 誠	マーケティング 消費者行動	消費者選好の相互作用と進化, 長期的視点から見たマーケティング環境と戦略
山鹿 久木	都市経済学 計量経済学	都市住宅, 交通混雑, 都市間環境格差の経済分析

講師		
吉田 謙太郎	環境経済・政策学 政策評価論	環境の経済評価, 環境政策の経済分析, 食 品安全性と消費者行動
吉田 友彦	住環境整備 都市計画	既成市街地の整備手法の開発, 基盤整備 事業と自治体住宅政策の連携, 外国人居 住と基盤整備事業の関係
渡邊 直樹	産業組織論 ゲーム理論	R&D, 特許ライセンス, 提携形成, 交渉, 流通などのミクロ経済分析, 動学的産業 構造の理論・実証分析

III. 研究活動



III-1 科学研究費・学内プロジェクト

科学研究費補助金一覧表

研究種目	氏名	研究課題
基盤研究（B）	藤川 昌樹	伝統的都市における街区保存手法の日中比較 - 北京と京都を事例として -
基盤研究（B）	吉田 あつし	医療サービス産業の市場と組織に関する計量分析
基盤研究（B）	山本 芳嗣	非対称地理データの分析とその視覚化
基盤研究（B）	金子 守	帰納的ゲーム理論と限定合理性：経験からの社会観形成と行動決定
基盤研究（B）	大澤 義明	高速道路建設における国民投票の意義 - 民主主義と経済効率との対立に着目して -
基盤研究（B）	石田 東生	乗用車の長期的走行再現シミュレータの開発と代替燃料車普及戦略への応用
基盤研究（B）	石井 健一	中国のメディアの対日報道と対日意識の関連 - 社会調査と内容分析による実証研究 -
基盤研究（C）	上市 秀雄	逸脱行動が生起するプロセスと矯正方法に関する研究
基盤研究（C）	藤原 良叔	ソフトウェアテストに用いる検査計画の構成に関する研究
基盤研究（C）	金澤 雄一郎	ランダム係数ロジットモデルを用いたアメリカ自動車需要の推定とマーケティング的考察
基盤研究（C）	星野 靖雄	国際的企業合併、買収、撤退、合併、完全子会社の業績についての実証研究
基盤研究（C）	水野 誠	消費者選好の形成と変化に関する研究
基盤研究（C）	住田 潮	CRMとインターネット：優良顧客識別アルゴリズムの評価とブラウジング行動解析
基盤研究（C）	岸本 一男	空間的投票理論による政党と選挙区との一次元政策空間での位置決めの実証的研究
基盤研究（C）	土井 正幸	県・市レベルのSAM（社会勘定行列）作成とCGE（計算可能一般均衡）モデル構築

基盤研究 (C)	藤井 英次	金融政策・インフレ環境の変化と為替レートの物価浸透率
基盤研究 (C)	高木 英明	移動体無線通信網におけるサービス品質の評価と通信資源の最適配分に関する理論的研究
基盤研究 (C)	橋本 昭洋	日本のQOL (生活の質) の推移測定
基盤研究 (C)	近藤 文代	日次POSデータを用いた重大事件ニュースの効果測定
基盤研究 (C)	香田 正人	ユビキタス・データマイニングの数理モデル構築と評価
基盤研究 (C)	焼田 党	人口変動と人的資本形成に関する研究
基盤研究 (C)	吉田 雅敏	公共サービス支出と家計生産に関する研究
基盤研究 (C)	繆 瑩	組合せ的デザイン理論を用いた周波数ホッピング系列の構成に関する研究
基盤研究 (C)	吉瀬 章子	非線形半正定値計画問題に対する数値的に安定した主双対内点法の開発
基盤研究 (C)	岡本 直久	鉄道新線沿線地域におけるモビリティ・マネジメント方策の実験的实施とその効果の検証
基盤研究 (C)	小場瀬 令二	オールドニュータウンとその周辺住宅地の持続性研究ー筑波の場合ー
萌芽研究	金子 守	社会経済状況における役割と行動様式：他者の心の経験からの理解
萌芽研究	斎尾 直子	現代農村地域社会におけるまちづくり活動の機能重視型アソシエーション化に関する研究
萌芽研究	永易 淳	情報と投資家行動の実証分析
萌芽研究	大村 謙二郎	ドイツを中心としたEUにおける地域整備に関わる地域ガバナンスの実態と展開の研究
萌芽研究	藤川 昌樹	積層パターンに着目した都市居住環境史の再構築
若手研究 (B)	吉田 謙太郎	地方環境税導入のための効率的な意思決定支援手法の研究
若手研究 (B)	後藤 順哉	パラメータの推定誤差を考慮したCVaR最小化に基づく金融リスク制御
若手研究 (B)	江口 匡太	解雇法制における契約の不完備性と社会規範形成の研究
若手研究 (B)	山鹿 久木	空間統計学や地理情報システムを応用した集積の経済・不経済の測定
若手研究 (B)	原田 信行	中小企業の資金調達環境と政策のあり方
若手研究 (B)	堤 盛人	我が国の測量業の特徴と今後のあり方に関する研究

若手研究（Ｂ）	吉田 友彦	首都圏郊外部における放棄住宅地の環境管理に関する基礎的研究
若手研究（Ｂ）	秋山 英三	理論的分析と実験的検証による様々なジレンマ状況における評判の効果に関する研究
若手研究（Ｂ）	大久保 正勝	マクロ金融分析における弱操作変数問題と予測可能性の検定
若手研究（Ｂ）	渡邊 直樹	動学的産業構造の理論・実証研究：研究開発、ライセンス、内生的提携形成
若手研究（Ｂ）	三橋 平	組織のスラック探索に関する包括的モデルの構築と実証研究
若手研究（Ｂ）	藤井 さやか	地区計画等における裁量的判断を要する基準の運用過程の分析と実効性の評価
若手研究（スター トアップ）	奥島 真一郎	「環境政策における経済的手法」再検討
特別研究員奨励費	雨宮 護	廃棄物投棄リスクを考慮した都市近郊緑地の保全管理手法の構築
特別研究員奨励費	鈴木 真介	評判システムが協力行動に与える影響の分析と評判システムの起源の考察
特別研究員奨励費	藤川 昌樹 DENG, Yi	伝統的都市空間の変容過程に即した保存・整備手法に関する日中比較研究
特別研究員奨励費	吉田 友彦 DUCOM, Es- telle	郊外のランドスケープと都市構造に関する日仏間の比較研究
基盤研究（Ｓ）分 担	秋山 英三	グローバル公共財としての地球秩序に関するシミュレーション分析
基盤研究（Ａ）分 担	腰塚 武志	都市内・都市間交通網と公共施設配置に関する数理的ならびに実証的研究
基盤研究（Ｂ）分 担	江口 匡太	企業リストラクチャリングの代替的手法
基盤研究（Ｃ）分 担	藤川 昌樹	紀ノ川との関係からみた宿場町橋本の建築史的・都市史的研究

III-2 受託研究・奨学寄付金

一般受託研究受入一覧表

担当者	研究期間	研究題目	委託機関
1 吉田 あつし	18.4.1 ~ 19.3.31	医療システムと倫理 (医療システムと医療 専門家組織、保険者、 民間保険機関の役割)	(独)日本学術振興 会
2 鈴木 秀男	18.8.17 ~ 18.10.31	競艇場のファンサービ スに関する調査研究	(社)全国モーター ボート競争会連合会
3 石田 東生	18.4.17 ~ 19.2.28	平成18年度技術革新 と需要変化を見据えた 交通部門のCO2削減 中長期戦略に関する研 究(リードタイムを考 慮した対策技術導入の 効果評価と政策手段に 関する研究)	(独)国立環境研究所
4 吉田 友彦	18.11.1 ~ 19.2.21	木更津市における郊外 戸建て住宅地の再生・ 再編のための居住者意 向把握等調査業務	(財)国土技術研究 センター
5 大村 謙二郎	18.10.2 ~ 19.3.15	大和町北地区まちづく りに関する研究	土浦市長
6 大澤 義明	18.11.1 ~ 19.3.31	博士課程「短期在学 コース」の創設に係る 課題等に関する調査研 究(大学等における早 期修了制度等の活用実 態分析及びそのニーズ に関して)	文部科学省高等教育 局(先導的大学改革 推進委託)

一般共同研究受入一覧表

	担当者	研究期間	研究題目	委託機関
1	鈴木 秀男	18.11.28 ~ 19.3.31	スポーツコンテンツ価値の定量化、経済価値との連動化	クロス・ビー

一般共同研究（経費受入れなし）受入一覧表

	担当者	研究期間	研究題目	委託機関
1	石田 東生 岡本 直久 堤 盛人	17.6.1 ~ 20.3.31	つくばエクスプレス開通に伴う交通行動変化と円滑化方策	国土交通省国土技術政策総合研究所
2	鈴木 秀男	18.5.1 ~ 19.3.31	プロ野球ファンサービス調査	株式会社西武ライオンズ

奨学寄付金一覧表

研究担当者	研究題目	寄附者機関名
1 小場瀬 令二	「古河市立総和中学校改築計画における利用者意向の把握」に対する助成	小場瀬令二(原寄附者:戸頃建築設計事務所)
2 住田 潮	「グローバル MBA・MOT 教育の研究」に対する研究助成	株式会社ソシオテック 研究所
3 焼田 党	「経済格差社会における年金制度と子育て支援政策の政治経済学的研究」に対する研究助成(財団法人簡易保険文化財団 調査研究助成)	焼田 党(原寄附者:財団法人簡易保険文化財団)
4 永易 淳	「実質為替レートと金利の非線形関係の実証分析」の研究に対する研究助成	財団法人村田学術振興財団
5 小場瀬 令二	総和中学校の計画のためのワークショップに関わる研究	株式会社戸頃建築設計事務所
6 大澤 義明	「立体角を用いた道路俯瞰景観に関する計量的研究-デジタル地図を活用して-」に対する研究助成(財団法人日本デジタル道路地図協会 平成 18 年度研究助成)	大澤 義明(原寄附者:財団法人日本デジタル道路地図協会)
7 住田 潮	「グローバル MBA・MOT 教育の研究」に対する研究助成	株式会社ソシオテック 研究所

8	大村 謙二郎	「郊外新都市居住に関する基礎的研究」に対する研究助成	株式会社アフタヌーンソサエティ
9	永易 淳	「購買力平価理論から考察する日本地域の物価」に関する研究に対する研究助成	財団法人全国銀行学術研究振興財団
10	大久保 正勝	「株式収益率の予測可能性と日本の株式市場」に関する研究に対する研究助成	財団法人全国銀行学術研究振興財団
11	大村 謙二郎	「不適切な土地利用のマネジメントに関する調査研究及びこれに関連する調査研究」の実施	財団法人土地総合研究所
12	渡邊 直樹	「携帯電話市場における製品サイクルの理論・実証研究」に対する研究助成	財団法人電気通信普及財団
13	住田 潮 山本 芳嗣	「銀行業務におけるさまざまな最適化問題についてのアドバイザー」に対する研究助成	みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社
14	石田 東生	「携帯電話を用いた広域交通に対する情報システムに関する研究」に対する研究助成	社団法人北海道開発技術センター
15	石川 竜一郎	「社会認識の形成とコミュニケーション：その経済学への応用」に関する研究に対する助成	石川 竜一郎（原寄付者：財団法人日本経済研究奨励財団）

IV. 各教員研究・教育活動



教授

浅野 哲

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) “Estimation of Brazilian Consumer Demand System” with P.S.Fiuza, IPEA, Brazil 2007

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：計量経済学（社会システム工学専攻），計量経済学（経営政策科学専攻）

社会工学類：計量経済学，線形代数

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会システムマネジメント図書委員長

社会工学類：入試実施副委員長

(3) 他大学における講義

- 1) 国際基督教大学教養学部（非常勤講師）

III. 社会的活動

- 1) 土浦第二高等学校にて大学模擬授業「経済の構造を推定する」H18年11月14日

石田 東生

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 査読なし論文

- 1) Intelligent Transport Systems Toolkit case study survey based on its toolkit in metro manila, Intelligent Transport Systems World congress 8-12 october, London, united kingdom, 共著 (Haruo Ishida, Hiroshi Makino)
- 2) 「効率的な TFP 対象者の選定に関する研究～つくば市および周辺地域を例として～, 土木計画学研究・講演集、No.33(8), 共著: 宮崎 (日本工営), 石田, 岡本, 堤, 谷口、2006 年 6 月 10 日開催
- 3) シーニックバイウェイ制度に関する比較研究-米国と北海道-, 土木計画学研究・講演集、No.33(202), 共著: 宮武 (リージャスト), 和泉、2006 年 6 月 11 日開催
- 4) シーニックバイウェイ北海道活動が関係者の協働と意識に与えた影響, 土木計画学研究・講演集、No.33(206), 共著: 市橋 (筑波大学大学院)・石田・岡本・堤・小川、2006 年 6 月 11 日開催
- 5) 自家用自動車の長期間移動再現シミュレータを用いた代替燃料スタンド配置に関する研究, 土木計画学研究・講演集、No.34(98), 共著: 関根 (筑波大学大学院)・石田・堤・岡本、2006 年 12 月 1 日開催
- 6) 土木計画学研究・講演集、No.34(282), 共著: Marie Danielle GUILLEN, H. ISHIDA, N. OKAMOTO, M. TSUTSUMI, A. TANIGUCHI, 2006 年 12 月 1 日開催

ii) 論説・講演等

- 1) 大都市圏における道路プロジェクトの挑戦と課題 東京外環と日本橋プロジェクト 道路建設、2006 年 3 月号, NO.694, pp.9-11, 単著
- 2) インタビュー：これからのみち, 都市をさぐる 建設通信新聞, 2006 年 (平成 18 年) 5 月 18 日付け、18 面
- 3) 巻頭インタビュー「高速道路会社が直面する課題と飛躍への期待」 道路、2006 年 6 月号, Vol.784, pp.4-11
- 4) 基調講演「北海道からの新しい風 シーニックバイウェイのもたらしたものの」, 尾道・まちづくりシンポジウム報告書、pp.10-61, 2007 年 1 月 26 日開催

iii) 口頭発表講演等

- 1) パネルディスカッション「市民協働による新しい尾道の創造」, 尾道・まちづくりシンポジウム報告書、pp.62-78, 2007年1月26日開催
- 2) 鉄道におけるITの積極的活用方策, 成熟社会の形成に向けた鉄道政策の展望～第4回 鉄道整備等基礎調査報告シンポジウム～, pp.101～pp.112, 2007年3月12日開催、調査報告
- 3) パネルディスカッション「エコドライブの普及拡大に向けて、地方自治体の可能性」, エコドライブ普及連絡会主催エコドライブ推進シンポジウム～地方自治体での取り組み～, pp.75-81, 2007年3月15日開催

(2) 学会活動

- 1) アジア交通学会理事
- 2) 土木学会理事
- 3) 日本道路協会理事

(3) 研究助成など

1) 科学研究費

1. 基盤研究(B) No.18360241, 「乗用車の長期的走行再現シミュレーションの開発と代替燃料車普及戦略への応用」

2) 奨学寄附金

1. 鹿島建設株式会社 土木技術部 DCI00512, 「軌道軌跡解析システムの研究」
2. 財団法人 計量計画研究所 DCI00513, 「プローブカーに関する研究」
3. 社団法人 北海道開発技術センター DCI00516, 「シーニックバイウェイ 北海道の団体活動が関係者間に協働と意識に与えた影響に関する研究」
4. 社団法人 北海道開発技術センター DCI00517, 「携帯電話を用いた広域交通に対する情報システムに関する研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

社会工学類：都市計画実習，都市計画事例講義および実習，社会基盤政策の未来演習，社会基盤整備と地域・国土計画

(2) 役職・各種委員会委員

全学：社会工学系長

システム情報工学研究科：社会システム・マネジメント専攻長，社会システム工学専攻長，計量ファイナンス・マネジメント専攻長

III. 社会的活動

- 1) 国土交通省社会資本整備審議会 臨時委員
- 2) 国土交通省交通政策審議会 臨時委員
- 3) 国土交通省交通省 LRT 等利用促進施策検討委員会 委員
- 4) 国土交通省国土技術政策総合研究所 研究評価委員会 委員
- 5) 国土交通省日本風景街道（シーニック・バイウェイ・ジャパン）戦略会議委員
- 6) 国土交通省独立行政法人評価委員会 臨時委員
- 7) 気象庁 入札監視委員会 委員
- 8) 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構 高架下利用審議会 委員
- 9) 茨城県環境審議会 委員
- 10) 茨城県事業認定審議会 委員
- 11) 茨城県総合計画審議会 委員
- 12) 茨城県公共事業再評価委員会 委員
- 13) 茨城県公共交通活性化指針策定委員会 委員
- 14) 財団法人道路新産業開発機構 研究審議会 委員
- 15) 財団法人運輸政策研究機構 都市鉄道整備等基礎調査委員会 委員
- 16) 財団法人運輸政策研究機構「第10回大都市交通センサス」調査検討委員会 委員長
- 17) 財団法人道路空間高度化機構 理事
- 18) 財団法人道路環境研究所 評議会 評議員

大澤 義明

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 切田元, 大澤義明 (2006): ミラーガラスに映り込む空の量に関する解析的研究. 日本都市計画学会第 41 回学術研究発表論文集, pp.235-240 .
- 2) Y.Ohsawa, F.Plastria and K.Tamura(2006): Euclidean push-pull partial covering problems. Computers and Operations Research, 33(12), pp.3566-3582.

ii) 学会機関誌, 口頭発表

- 1) 大澤義明, 切田元 (2006): 都市景観解析への定量的接近-見えの大きさとバランス-. 都市計画, 264, pp.19-24 .

(2) 学会活動

- 1) オペレーションズ・リサーチ学会代議員
- 2) 応用地域学研究編集委員
- 3) 地理情報システム学会理事
- 4) 査読: International Journal of Geographical Information Science, TOP(Official Journal of the Spanish Society of Statistics and Operations Research), 都市計画学会学術発表会, 日本建築学会計画系論文誌, 地理情報システム学会論文誌, 国際都市計画シンポジウム 2 0 0 6 .

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 「高速道路建設における国民投票の意義 - 民主主義と経済効率との対立に着目して」. 基盤研究 B, 研究代表者 .
- 2) 日本デジタル道路地図協会平成 18 年度研究助成, 立体角を用いた道路俯瞰景観に関する計量的研究 - デジタル地図を活用して - , 研究代表者 .
- 3) 平成 17 年度財団法人日本証券奨学財団, 市町村単独補助金事業の見直し政策に関する研究, 研究代表者.

(4) その他

- 1) 2006年度都市のORサマーセミナー・幹事(2006年8月,筑波大学)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：地域計量理論

環境科学研究科：立地環境論

社会工学類：都市計画事例講義及び実習，都市計画マスタープラン策定実習，都市解析，微積分，都市・地域・環境を考える，社会工学特設講義

(2) 役職・各種委員会委員

全学：研究戦略室員，高大連携委員会副委員長

システム情報工学研究科：カリキュラム委員会委員長，博士課程「短期在学コース」の創設に係る課題等に関する調査研究責任者

社会工学類：カリキュラム委員，同窓会設立準備委員

III. 社会的活動

- 1) 茨城県環境影響評価審査会委員
- 2) 茨城県スーパー・サイエンス・ハイスクール運営指導委員会委員
- 3) 土浦市総合企画審議会会長
- 4) 石岡市都市計画審議会副会長
- 5) 取手市総合計画審議会会長
- 6) 取手市行政改革推進委員会会長
- 7) 取手市補助金検討委員会委員長
- 8) 取手市国土交通省所管公共事業再評価委員会委員長
- 9) 坂東市補助金等検討委員会委員長
- 10) 守谷市都市計画審議会副会長
- 11) サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト講座型学習活動実施担当者

大村 謙二郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) “ Factors that affects self-build housing in Nairobi, Kenya ”, P.K.Kamau, K.Omura, T.Arita, 『都市住宅学』 No.53, 2006, pp.78-85
- 2) “ The Constraints on Married Women ’s Everyday Lives in Time and Space in Taipei- from the Viewpoint of the Preparation of Meals, ” Ping-li CHEN, Sayaka FUJII, Tomokazu ARITA, Kenjiro OMURA, Proceedings of International Symposium on Urban Planning 2006, 2006 査読有
- 3) “ The Impact of the “ Urban Renaissance ” Policy in Japan ”, Sayaka FUJII, Tomokazu ARITA, Kenjiro OMURA, Proceedings of International Symposium on Urban Planning 2006
- 4) 「首都圏郊外における鉄道駅前商業集積の停滞実態とその課題 -本厚木駅・小田原駅前地区を対象として-」, (阿藤卓弥、大村謙二郎、有田智一、藤井さやか) 『都市計画論文集』, No.41, 2006年11月、pp.1037-1042
- 5) 「地方都市における医療施設の新規立地による周辺影響と立地誘導の方向性」(市川美穂子、大村謙二郎、有田智一、藤井さやか) 『都市計画論文集』, No.41, 2006年11月、pp.803-808
- 6) 「大規模都市開発における行政・企画提案主体・市民による協議の実態と課題 -再開発等促進区と都市計画契約を活用したBプランの協議プロセスの比較を通じて-」(山口美貴、大村謙二郎、有田智一) 『都市計画論文集』, No.41, 2006年11月、pp.301-306
- 7) 「開発許可運用基準における商業系立地コントロール手法の限界と可能性-都市計画法34条1号及び8号運用基準による商業系立地コントロール手法を対象として-」(北崎朋希、大村謙二郎、有田智一) 『都市計画論文集』, No.41, 2006年11月、pp.295-300
- 8) 「企業城下町における郊外戸建住宅地の課題と再生の方向性-日立市におけるケーススタディー」(村本浩一、鷄内久之、仲村隆、蛭田晃生、藤井さやか、有田智一、大村謙二郎) 『都市住宅学』 No.55, 2006年11月、pp.64-69
- 9) 「旧東独都市における総合的市街地再生の試み」(太田尚孝、大村謙二郎、有田智一、藤井さやか) 『都市住宅学』, No.55, 2006年11月、pp.58-63
- 10) 「企業城下町日立における日立製作所の社宅・寮整備の返還と現状」(北崎朋希、村本浩一、阿藤卓哉、市川美穂子、有田智一、藤井さやか、大村謙

- 二郎)『都市住宅学：第14回学術講演会研究論文』、No.55, 2006、pp.114-119
- 11) 「ドイツのコンパクト都市づくり 先進事例に学ぶ日本の進路」『日経グローバル』2006.4.17, No.50, pp.32-37
 - 12) 「ドイツにみる広域行政圏活動と日本への示唆」『地方拠点都市地域ニューズレター』No.43 (2006.Oct.17) 地域開発センター、pp.7-10
 - 13) 「ドイツにおける人口減少社会に対応した都市計画」『第30回 都市計画セミナー：人口減少時代に対応した都市計画』2007.01、日本都市計画学会、pp. -1 - 26
 - 14) 「縮小時代の都市・地域政策の課題:日独比較の視点から」『IBS Annual Report 研究活動報告2006』2007.03、計量計画研究所、pp.22-23

(2) 学会活動

- 1) 日本都市計画学会理事
- 2) 日本都市計画学会国際委員会委員
- 3) 都市住宅学会会長
- 4) 都市住宅学会誌「都市住宅学」編集委員長

(3) 研究助成など

- 1) 平成18年度科学研究費 萌芽研究「ドイツを中心としたEUにおける地域整備に関わる地域ガバナンスの実態と展開の研究」
- 2) 受託研究 土浦市委託 研究題目：大和町北地区まちづくりに関する研究

(4) その他

- 1) 2006年7月17日から7月28日の2週間、ドイツ、ルール大学ポッフム(Uta Hohn教授)で開催された、サマースクールに筑波大学大学院生(システム情報工学研究科10名、環境科学研究3名)を引率して参加、ドイツ側大学院生(9名)、上海同済大学大学院生10名と合わせて、Uta Hohn教授、有田智一助教授(7月24日から参加)と共に教育指導を行った。
- 2) 2006年10月5日に筑波大学で開催された文教施設セミナー(筑波大学及び文教施設協会主催)において、「筑波大学のキャンパスリニューアル-都市と大学」と題して、講演を行った。
- 3) 2006年11月12日につくば国際会議場で開催された、つくばスタイルシンポジウム(つくば市、都市再生機構他主催)のパネルディスカッションにおいてコーディネータをつとめた。

- 4) 2006年11月14日 都議会議事堂の都民ホールで行われる東京都都市整備局業務体験発表会(平成18年度)において記念講演「成熟社会に向けた都市計画・住宅政策」を行う。
- 5) 2006年12月2日 つくば国際会議場でNPOつくば建築研究会主催の市民シンポジウム「つくばの魅力的なまちづくり」において、講演及びパネルディスカッションのコーディネータを行った。
- 6) 2006年12月4日から6日にかけて、韓国ソウルで開催された、国際会議「住みたいニュータウン」(韓国土地公社主催)に主催者から招待を受けて「日本における都市地域ストック再生に向けた動き」のテーマで講演を行うと同時に、韓国の専門家とのパネルディスカッションを行った。
- 7) 2007年01月19日(金)、(財)計量計画研究所で開催された国際都市計画交流組織(INEX)推進協議会第2回国際交流部会で「ドイツにおける人口減少・都市縮小時代に対応した都市・地域計画」と題して、講演を行った。
- 8) 2007年1月23日(火)、24日(水)に開催された日本都市計画学会主催、第30回都市計画セミナーにおいて、23日(火)に「ドイツにおける人口減少社会に対応した都市計画」と題して講演を行った。

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：比較都市計画史特論

環境科学研究科：都市環境計画原論

社会工学類：アメニティ創造のまちづくり実習，土地利用・地区整備計画，現代まちづくりの理論と実践

総合科目：都市・地域・環境を探る 、 、

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会システム・マネジメント専攻施設委員

環境科学研究科：論文審査委員

社会工学類：運営委員

III. 社会的活動

- 1) 茨城県開発審査会委員
- 2) 茨城県入札監視委員会委員

- 3) 茨城県まちづくり顕彰事業ほう賞審査委員会委員
- 4) つくば市都市計画審議会会長
- 5) 東京都住宅政策審議会委員
- 6) 東京都国土利用計画審議会会長
- 7) 江戸川区都市計画審議会委員
- 8) 板橋区住宅対策審議会会長
- 9) 川崎市建築等紛争調停委員会委員

小場瀬 令二

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 論文

- 1) 小場瀬「民間開発による地区計画のある遠隔郊外住宅地の相続時の変容動向に関する研究 八王子市めじろ台住宅団地を事例として」(『都市計画論文集』第 41-3 号、pp.671-676、2006.10)。
- 2) 大澤のり子、小場瀬令二「皇居を中心とした明治期の東京の都市づくりに関する研究 -皇居造営に伴う周辺土地の皇宮地編入の過程と市区改正への影響の分析から-」(『都市計画論文集』第 41-3 号、pp. 947-952、2006.10)。

ii) 街づくりコンペ

- 1) 「明舞団地再生コンペ」(兵庫県、神戸市主催)特別賞(最終5点)授賞、2006.9。
- 2) 「美しくまちをつくる、むらをつくるコンペ = 課題地足立区」(日本建築学会関東支部主催)最優秀賞受賞、2006.11。

(2) まちづくりに関する海外調査

- 1) 2006 夏期 3 週間かけて、オランダ、ドイツ、フランス、イギリスの諸都市において街づくりに関する調査を実施
- 2) 2006 年 11 月にウィーンにおいて公園の利用実態調査を実施

金澤 雄一郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Effectiveness of Japanese Correctional Treatments for Juveniles, *Behaviormetrika*, 33(2), 149-177, 2006 (With Yoshikazu YUMA and Masaya KUNIYOSHI).
- 2) Evaluating Relative Effectiveness of Training School Programs to Probation on Recidivism of Japanese Juvenile Delinquents, Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series, 1178, 2007 (With Yoshikazu YUMA and Masaya KUNIYOSHI).
- 3) On the Interactive Effect of Personality Traits and Achievement Motive on Customer Orientation, Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series 1179, 2007 (With Shogo IWANAGA and Shinichiro WATANABE).

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 統計関連学会連合大会: 仙台市東北大学川内北キャンパス、2006年9月5日(火)から9月8日(金)、"Limit theorems for estimating the parameters of differentiated product demand and supply systems when purchasing information on the consumer's demographics is available," (With Satoshi MYOJO)
- 2) 統計関連学会連合大会: 仙台市東北大学川内北キャンパス、2006年9月5日(火)から9月8日(金)、"An empirical study on the Bayesian analysis of simultaneous demand and supply," (With Yutaka YONETANI)
- 3) Tsukuba-Tohoku Joint Workshop on New Directions of Research in Marketing: 筑波大学・東京キャンパス、2006年12月15日(金)から16日(土)、"On Asymptotic Properties of The Parameters Estimates of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available," (With Satoshi MYOJO)

(2) 学会活動

- 1) Neurocomputing レフェリー

(3) 研究助成など

- 1) 科研費 (C)(2) 「ランダム係数ロジットモデルを用いたアメリカ自動車需要の推定とマーケティング的考察」
- 2) 学内プロジェクト助成研究 (A) 「統計的領域推定における新しいリスク評価と検定論への応用」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：統計学特論Ⅰ，統計学特論Ⅱ，統計学Ⅱ，データ解析
社会工学類：Introduction to Management Science，データ解析

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会システム・マネジメント専攻就職委員会委員，
オリエンテーション委員会委員長
社会工学類：就職委員会委員

(3) 他大学における講義

- 1) 東京大学教養学部広域科学科「システム統計学Ⅰ」非常勤講師

III. 社会的活動

- 1) 大学基準協会審査委員
- 2) JABEE 審査委員

金子 守

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 論文

- 1) Information Protocols and Extensive Games in Inductive Game Theory (with J. J. Kline), To appear in Game Theory and Applications.

ii) 著書

- 1) 金子守『地界で考える 社会正義』勁草書房 2007年、304ページ。

iii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 招待講演 Recent Developments in Epistemic Logic, 日本科学哲学学会大会, 2006.

(2) 学会活動

- 1) Associate Editor of Mathematical Social Sciences
- 2) Associate Editor of Social Choice and Welfare
- 3) Associate Editor of Economic Theory
- 4) Associate Editor of Knowledge, Rationality & Action

(3) 研究助成など

i) 科学研究費

- 1) 萌芽研究：「賃貸住宅市場シミュレータの開発：その具体的応用と経済理論・ゲーム理論の基礎の検証」平成19年150万、20年140万。
- 2) 基盤研究B：「帰納的ゲーム理論と限定合理性：経験からの社会観形成と行動決定」平成18年370万、19年260万、20年260万。
- 3) 日本経済研究奨励金 「社会正義：歴史的事実、社会経済制度、そして人間の心」50万円。

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：ゲーム理論特論（博士課程）、ゲーム理論（修士課程）

社会工学類：ゲーム論

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 就職委員長

(3) 他大学における講義

- 1) 早稲田大学政治経済学部大学院 社会正義論

岸本 一男

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 学術論文

- 1) 遠藤操・左士イ・岸本一男：2重待ち行列による日中株価変動のモデル化とその検証，日本応用数理学会論文誌，Vol.16(2006) pp.305-316.
- 2) 久保隆宏・山本光代・岸本一男：得票数からの政党と選挙区の政策座標計算？有権者意見分布正規性仮定の妥当性？，日本応用数理学会論文誌，Vol.16(2006) pp.563-574.
- 3) 山本光代・岸本一男：参議院選挙（全国区）（第11回）に関する市（区）町村別候補者別得票数データベースの作成，平成18年度多目的統計データバンク年報，No.83(2007) pp.19-28.
- 4) 山崎渉平・山本光代，岸本一男：有権者の「誠実な投票」を仮定した場合の英国3政党の政策位置，平成18年度多目的統計データバンク年報，No.83(2007) pp.73-78.
- 5) 前田貢一・山本光代・岸本一男：戦前戦後の有権者投票行動の連続性と不連続性—有効候補者数からのアプローチ—，日本政治研究，（印刷中）。

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 岸本一男：Duvergerの法則を説明する部分ゲーム完全均衡解，応用数理学会数理政治学研究部会口頭発表，2006年6月10日。
- 2) 山本光代・岸本一男：政党と選挙区の位置決め計算における小政党の順位の解析，応用数理学会年会口頭発表，2006年9月16日。
- 3) 岸本一男：Duvergerの法則を説明する3ステップ展開型ゲームとその部分ゲーム完全均衡解，応用数理学会年会口頭発表，2006年9月16日。
- 4) 山崎渉平，山本光代，岸本一男：英国国政選挙のDownsモデルによる政策座標計算，応用数理学会数理政治学研究部会口頭発表，2006年11月25日。
- 5) 岸本一男：政策2次元の場合の3政党のナッシュ均衡解，応用数理学会数理政治学研究部会口頭発表，2006年11月25日。

- 6) 山本光代・岸本一男：Downs モデルに基づく政党位置計算での小政党の解の振る舞い，応用数理学会春の研究部会連合発表会口頭発表，2007年3月3日．
- 7) 岸本一男：2次元平面上での3政党 Nash 均衡解の構造安定性について，応用数理学会春の研究部会連合発表会口頭発表，2007年3月3日．

(2) 学会活動

- 1) 日本応用数理学会理事
- 2) 日本応用数理学会年会実行委員長
- 3) 日本応用数理学会論文誌編集委員
- 4) 日本電子情報通信学会査読委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費基盤研究 (C)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：システム数理特論（社シス・経政専攻），数理ファイナンス（経政専攻）

社会工学類：数理解析，応用数理

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会工学関係3専攻合同修論委員長，社会工学関係3専攻図書委員

社会工学類：運営幹事

(3) 他大学における講義

- 1) 横浜市立大学非常勤講師

香田 正人

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 高畠泰斗, 香田正人, 1クラスSVMと近傍サポートによる領域判別, オペレーションズ・リサーチ, 日本OR学会機関誌, Vol.51, No.11, pp.677-682, 2006.
- 2) 香田正人, ルディー和子, 他2名, 販売面での顧客セグメンテーションモデル(データマイニングの適用を含めて), 日本ダイレクトマーケティング学会 News Letter-第5回全国研究発表大会特集号, pp.17-20, 2006.
- 3) 香田正人, ルディー和子, 他2名, 販売面での顧客セグメンテーションモデル(データマイニングの適用を含めて), 日本ダイレクトマーケティング学会-自主研究プロジェクト報告書 (No.2006-00001), 76p, 2006.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 高畠泰斗, 香田正人, 密度推定法に基づくカーネル判別機械, 日本OR学会 2007年春季研究発表会, アブストラクト集, pp. 116-117, 2007年3月29日.
- 2) 香田正人, ルディー和子, 他2名, 販売面での顧客セグメンテーションモデル(データマイニングの適用を含めて), 日本ダイレクトマーケティング学会第5回全国研究発表大会報告要旨, pp.13-16, 2006年6月10日.
- 3) M. Koda, "An Overview of Service Science, Management, and Engineering (SSME) Conference," 中国科学院研究生院管理学院(北京), 2006年10月20日.

(2) 学会活動

- 1) 日本ダイレクトマーケティング学会副会長, DBM研究部会長
- 2) 日本OR学会 IAOR 編集委員会委員長, 理事, フェロー
- 3) FMES(経営工学研連)代表者会議幹事
- 4) 国際会議組織委員 (ICCS2007: Int. Conf. Comput. Science 2007, Beijing)
- 5) 編集委員 (Contributing Editor), International Abstracts in OR, IFORS
- 6) 編集委員 (Associate Editor), Journal of Information and Communication Technology, Universiti Utara Malaysia

- 7) 日本ダイレクトマーケティング学会 自主研究プロジェクト主査「販売面での顧客セグメンテーション（データマイニングの適用を含めて）」

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費基盤研究 (C) (代表)「ユビキタス・データマイニングの数理モデル構築と評価」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：データマイニング工学特論，プロジェクト・マネジメント - 理論と実践

社会工学類：数理工学モデル化実習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会システム工学専攻長
- 2) システム情報工学研究科運営委員会委員
- 3) システム情報工学研究科人事委員会委員
- 4) 第三学群運営委員会委員
- 5) 実システム開発指向高度人材育成プログラム（北大連携）運営委員
- 6) 社会システム・マネジメント関連3専攻合同運営委員
- 7) 大学院・学類連携タスクフォース委員長
- 8) 大学院新カリキュラム・タスクフォース（実践的姿）委員長

佐藤 亮

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 佐藤亮：組織とマネジメント、計測と制御, 46-4, pp319-324、計測自動制御学会、2007.
- 2) Ryo Sato, “Integrating Information Systems Methodologies into an Engineering Discipline: Methodological Issues, And the Rise of Business Process

Engineering”, Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series No.1156, University of Tsukuba, 2006.

- 3) 河合亜矢子, 佐藤亮, 住田潮: “サプライチェーン・マネジメントにおける計画情報システムの統合について”, 経営情報学会 2006 秋季全国研究発表大会予稿集 pp.198-201, 2006.
- 4) Yaghoub Khojasteh Gharamari, Ryo Sato: “Developing an integrated framework for analyzing performance of production systems”, 経営情報学会 2006 秋季全国研究発表大会予稿集 pp.336-339, 2006.
- 5) 佐藤亮, 福永康人, 鎌形俊幸: “サービスのイノベーション・アーキテクチャ戦略策定・管理手法に関する考察”, 経営情報学会 2006 秋季全国研究発表大会予稿集 pp.372-375, 2006.
- 6) 福永康人, 佐藤亮, 鎌形俊幸: “イノベーション・アーキテクチャによる eMP の分析”, 経営情報学会 2006 秋季全国研究発表大会予稿集 pp.376-379, 2006.

(2) 学会活動

- 1) 経営情報学会誌編集委員
- 2) (社) 計測自動制御学会システム情報部門システム工学部会運営委員
- 3) Information Resources Management Journal レフェリー
- 4) The Fifth International Workshop on Agent-based Approaches in Economic and Social Complex Systems (2007 年 8 月開催) プログラム委員
- 5) The 51st annual meeting of the International Society for the Systems Sciences (2007 年 8 月開催) 実行委員

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：情報システム特論，情報システム論

社会工学類：経営情報システム，経営情報システム演習，社会基盤と情報・ロジスティクス産業，社会工学特設講義（ビジネスゲーム）

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会システム工学専攻入試実施委員長

社会工学類：授業評価委員長

III. 社会的活動

- 1) SAP ジャパン Higher Learning Initiative 委員

庄司 功

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Shoji, I., (2007), Numerical analysis of the finite sample properties of estimators, 不確実環境における森林資源最適確率制御モデルによる炭素固定の経済分析 (基盤 (B)) 研究成果報告書, 281-298.
- 2) 行武、吉本、庄司, (2007), 市場における木材価格差別に関する研究, 世界木材貿易を通じた循環型森林資源管理の温暖化防止効果への影響分析 (基盤 (B)) 研究成果報告書, 175-192.

(2) 学会活動

- 1) Associate editor: Advances and Applications in Statistics, Asia-Pacific Financial Markets

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：ファイナンスモデル特論，金融時系列解析
社会工学類：計量時系列分析，計量ファイナンス演習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会システム・マネジメント専攻予算委員
社会工学類：カリキュラム委員

住田 潮

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) “Numerical Exploration of Dynamic Behavior of Ornstein-Uhlenbeck Processes via Ehrenfest Process Approximation,” (with J. Gotoh and H. Jin), Journal of Operations Research Society of Japan, Vol. 49, No. 3, pp256-278, 2006
- 2) “音楽 CD 市場におけるブランド力の構造分析,” (齊藤、高橋、小池、菅谷 共著), オペレーションズ・リサーチ, Vol. 52, No. 2, 2007
- 3) “Optimal Threshold Analysis of Segmentation Methods for Identifying Target Customers,” (with M. Mizuno, A. Saji and H. Suzuki), to appear in European Journal of Operational Research
- 4) “A New Approach for Computing Option Prices of the Hull-White Type with Stepwise Reversion Function,” (with J. Gotoh and H. Jin), to appear in the Journal of Derivatives
- 5) “Structural Analysis of Optimal Investment Strategy with Budget Constraints for Project Management: Real Option Approach,” (with T. Ise), Working Paper Series, No. 1146, Department of Social Systems and Management, University of Tsukuba, 2006, submitted for publication
- 6) “Numerical Evaluation of Dynamic Behavior of Ornstein-Uhlenbeck Processes Modified by Various Boundaries and Its Application to Pricing Barrier Options,” (with J. Gotoh and H. JIN), Working Paper Series, No. 1149, Department of Social Systems and Management, University of Tsukuba, 2006, submitted for publication
- 7) “Development of Computational Algorithms for Evaluating Option Prices Associated with Squared-Root Volatility Processes,” (with H. Takada and H. Jin), Working Paper Series, No. 1161, Department of Social Systems and Management, University of Tsukuba, 2006, submitted for publication
- 8) “Structural Analysis of Two Person Game with Mixed Strategy for Public Utility Supply,” (with K. Takahashi), Working Paper Series, No. 1163, Department of Social Systems and Management, University of Tsukuba, 2006, submitted for publication

(2) 学会活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会 機関紙編集委員

(3) 研究助成など

- 1) 文部科学省科学研究費基盤研究C「CRMとインターネット：優良顧客識別アルゴリズムの評価とブラウジング行動解析」
- 2) 奨学寄附金受託研究：「信用リスク制御に関する問題解法及びO Uプロセス吸収壁問題数値解法の開発」(山本芳嗣教授、後藤順哉講師と共同)みずほ第1ファイナンシャル・テクノロジー株式会社
- 3) 奨学寄附金受託研究：「グローバル教育の研究」ソシオテック研究所
- 4) 奨学寄附金受託研究：「グローバルMBA・MOT教育の研究」ソシオテック研究所

(4) その他

- 1) 平成18年度 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究賞
- 2) 平成18年度 第1回賃料データ分析コンペティション第3位(日本不動産金融工学学会)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：ビジネス戦略(修士課程),オペレーションズ・リサーチ特論(博士課程)

社会工学類：社会基盤と情報ロジスティクス産業(2人で共同担当),経営の科学II(2人で共同担当),応用確率論

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) システム情報工学研究科 カリキュラム開発TFメンバー
- 2) 施設運営委員会 メンバー
- 3) 就職委員会 メンバー

(3) 他大学における講義

- 1) 国際基督教大学フランス・プログラム集中講義

III. 社会的活動

- 1) OECD Tri-Logistics Research Project アジア研究部会・委員
- 2) 道路経済研究所 ロジスティクス研究部会・メンバー

IV. 講演・視察活動：

- 1) 4月1-3日 沖縄IT 特区視察
- 2) 4月5日 (株) 富士フィルム物流 ロジスティクス・コールセンター視察
- 3) 4月13日 講演 “ロジスティクスの最新動向 I” 道路経済研究所
- 4) 4月22日 講演 “R&D マネジメントの最新動向” (株) フジクラ
- 5) 5月15日 討論 “トヨタの海外戦略の課題 I” トヨタ自動車株式会社
- 6) 5月25日 講演 “企業診断システムの本質” (株) ソシオテック研究所
- 7) 5月29日 討論 “トヨタの海外戦略の課題 II” トヨタ自動車株式会社
- 8) 6月5日 (株) 菊水化学 中小企業の R&D 戦略、視察
- 9) 6月8-9日 “企業経営とファイナンス” (株) デンソー 幹部研修プログラム
- 10) 7月20-21日 “インターネット革命の本質と IT 戦略” (株) デンソー 幹部研修プログラム
- 11) 7月27-29日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 12) 8月10-12日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 13) 8月24日 (株) 綜研化学 中小企業の R&D 戦略、視察
- 14) 8月30-31日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 15) 9月11日 “R&D 資源戦略の最前線” (株) 小田急 幹部研修プログラム
- 16) 9月21-23日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 17) 10月5-7日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 18) 10月13日 講演 “21世紀における日本企業の課題” (株) 東芝グループ 社長会
- 19) 10月16-18日 (株) 豊田通商 Global Leadership Program “Challenges of Global Leaders at Toyota Tsusyo”
- 20) 10月19-21日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・

コース 主任講師

- 21) 11月9-11日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・
コース 主任講師
- 22) 11月15日 “R&D 資源戦略の最前線” (株)ヤマハ発動機 幹部研修プログラム
- 23) 11月23-24日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・
コース 主任講師
- 24) 11月29日 講演 “企業診断システム OMAC” (株)ソシオテック研究所
- 25) 12月1-2日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・
コース 主任講師
- 26) 12月14-16日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・
コース 主任講師
- 27) 1月25-27日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・
コース 主任講師
- 28) 2月6日 “企業経営とファイナンス” (株)リコー 幹部研修プログラム
- 29) 2月7-9日 海外技術者研修協会 中国IT研修プログラム 主任講師
- 30) 2月22-23日 日本能率協会主催 プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・
コース 主任講師
- 31) 3月5-6日 (株)豊田通商 中国マネジャー研修プログラム 講演 “異文化
マネジメントと起業家精神”

高木 英明

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) D. Wu and H. Takagi, “M/G/1 Queue with Multiple Working Vacations,”
Performance Evaluation, Vol.63, Issue 7, pp.654-681, July 2006.
- 2) Hironao Takagi, Yongbing Zhang, and Hideaki Takagi, “Reconfiguration
Heuristics for Logical Topologies in Wide-Area WDM Networks,” IEICE
Transactions on Communications, Vol.E88-B, No.7, pp.1994-2001, July 2006.
- 3) 高木英明, 大学におけるサービス・サイエンスの研究と教育 -最適化から仕
組みの構築へ-, オペレーションズ・リサーチ, Vol.51, No.9, pp.567-572, 2006
年9月.

- 4) H. Takagi and R. M. Rodriguez-Dagnino, "Counting the Number of Renewals during a Random Interval in a Discrete-Time Delayed Renewal Process," *Operations Research Letters*, Vol.35, pp.119-124, 2007.
- 5) S.-Y Kim and H. Takagi, "Distributed Throughput-Based Fair Queueing for Wired and Wireless Packet Communication Networks," *信学技報*, Vol.106, No.42, NS2006-2, pp.7-12, 2006年5月18日, 電子情報通信学会.
- 6) H. Takagi, "Explicit Delay Distribution in First-Come First-Served M/M/m/K and M/M/m/K/n Queues and a Mixed Loss-Delay System," *Proceedings of the Asia-Pacific Symposium on Queueing Theory and its Applications to Telecommunication Networks*, pp.1-11, Korea University, Seoul, Korea, August 27-29, 2006.
- 7) S.-Y. Kim and H. Takagi, "Distributed Throughput-Based Fair Queueing for Wired and Wireless Packet Communication Networks," *Proceedings of the Asia-Pacific Symposium on Queueing Theory and its Applications to Telecommunication Networks*, pp.171-182, Korea University, Seoul, Korea, August 27-29, 2006.
- 8) H. Takagi, "Research and Education of SSME in Japanese Universities," *Service Science, Management, and Education: Education for the 21st Century*, IBM Palisades Conference Center, New York, October 5-7, 2006.
- 9) H. Takagi, "Research and Education of Service Sciences in Japanese Universities," *Tunisia-Japan Symposium on Society, Science & Technology (TJASSST 2006)*, Sousse, Tunisia, December 4-6, 2006.
- 10) S.-Y. Kim and H. Takagi, "Channel-Aware Distributed Throughput-Based Fair Queueing for Wired and Wireless Packet Communication Networks," *待ち行列シンポジウム「ユビキタスネットワーク社会における情報通信サービスの設計・評価法」報文集*, pp.1-10, 福島県郡山市 (日本大学工学部), 2007年1月22-24日.
- 11) H. Takagi, "Explicit Delay Distribution in First-Come First-Served M/M/m/K and M/M/m/K/n Queues and a Mixed Loss-Delay System," *待ち行列シンポジウム「ユビキタスネットワーク社会における情報通信サービスの設計・評価法」報文集*, pp.84-93, 福島県郡山市 (日本大学工学部), 2007年1月22-24日.
- 12) 尾崎圭徳・高木英明, 到着率がシステム内呼数に依存する即時呼と待時呼を持つ M/M/m/K 待ち行列の解析, *待ち行列シンポジウム「ユビキタスネットワーク社会における情報通信サービスの設計・評価法」報文集*, pp.116-123, 福島県郡山市 (日本大学工学部), 2007年1月22-24日.

(2) 学会活動

- 1) 学術論文誌 Performance Evaluation (Elsevier) 編集委員
- 2) 学術論文誌 Queueing Systems (Balzer) 編集委員
- 3) プロジェクトマネジメント学会 (任意団体) 特任理事

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金，基盤研究 (C)，課題番号 1850045，移動体無線通信網におけるサービス品質の評価と通信資源の最適配分に関する理論的研究，900 千円．
- 2) 社会システム・マネジメント専攻 院生研究活動支援プロジェクト (研究会開催経費)，199,200 円．
- 3) VBL 教育支援プログラム「サービス業務におけるイノベーションの教育とビジネス・リーダーの育成」500 千円．
- 4) システム情報工学研究科教員当教育研究費重点配分「サービス・サイエンスの創成とサービスにおけるイノベーションへの貢献」代表．

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：応用確率過程論，サービス科学：理論と実践
社会工学類：微積分 I，応用確率過程，東京の都市学（1 時間）

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：経営・政策科学専攻長（平成 18 年 4 月 26 日～），
人事委員会委員，運営委員
産学リエゾン共同研究センター：運営委員
筑波大学出版会（仮称）：設立準備室室員・編集委員会委員

III. 社会的活動

- 1) 特定非営利活動法人つむぎつくば 代表
- 2) 第 2 回つくばベンチャー大賞 選考委員長
- 3) 筑波大学産学連携会（任意団体）会長補佐、理事
- 4) いばらきベンチャー企業育成投資事業有限責任組合投資評価委員会 委員

- 5) NPO セキュアなデジタル社会を推進する会 協力会員
- 6) 高木英明, 第2回つくばベンチャー大賞について, CROSS つくば, No.25, pp.4-6, 2007年1月発行 (財)総合科学研究機構.
- 7) 高木英明, 第2回つくばベンチャー大賞について, Science & Technonews Tsukuba, No.81, pp.2-3, 2007年1月発行, つくば研究支援センター.

土井 正幸

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 著書土井正幸編著 Computable General Equilibrium Approaches in Urban and Regional Policy Studies, World Scientific Publishing Co. Pte. Ltd., June 2006, pp.1-409.
- 2) 査読付き論文 “Analysis of Household Leisure and Shopping Behavior in Ibaraki Prefecture, Japan”, Review of Urban and Regional Development Studies, 18-2, 2006, pp.165-178.

(2) 学会活動

- 1) Managing Editor, Review of Urban and Regional Development Studies.
- 2) 応用地域学会運営委員.
- 3) 日本交通学会評議員、学会賞審査委員.
- 4) 日本港湾経済学会理事.
- 5) 日本海運経済学会評議員.

(3) 研究助成など

- 1) 文部科学省科学研究費基盤研究(C)(2)、研究代表者.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：地域経済学特論（社会システム工学専攻），地域経済学（経営・政策科学専攻），交通経済政策論（経営・政策科学専攻）

社会工学類：地域と地域間の経済学，空間と交通の経済学，都市構造論，都市地域経済学演習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会システムマネジメント専攻運営委員

社会工学類：社会工学類4年担任

(3) 他大学における講義

- 1) 流通経済大学非常勤講師

III. 社会的活動

- 1) 厚生労働審議会専門委員
- 2) 茨城県港湾審議会委員
- 3) (独)国際協力機構支援委員会委員
- 4) 国土交通省、茨城県等において、各種調査・研究委員会の委員、講演など

中村 豊

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Nakamura, Y.: SSB preferences: nonseparable utilities or nonseparable beliefs (to appear in a book in honor of Peter C. Fishburn).

(2) 学会活動

- 1) Action editor of Journal of Mathematical Psychology
- 2) 日本経済学会春季大会におけるセッションの座長

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：意思決定理論（社会システム工学専攻），数学 ，意思決定分析（経営・政策科学専攻）

社会工学類：意思決定論，微積分

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：運営委員，カリキュラム・タスクフォース委員（社会システム・マネジメント専攻）

社会工学類：予算委員

橋本 昭洋

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Hashimoto, A. and Haneda, S., Measuring the change in R&D efficiency of the Japanese pharmaceutical industry - revised. Dept. Social Sysys Mgmt Discussion Pap. Ser. 1145, Univ. Tsukuba, 2006.
- 2) 羽田尚子・橋本昭洋，DEA/Malmquist 指数による製薬産業の研究開発効率の推移 測定．技術進歩の経済分析（研究・技術計画学会 20 周年記念叢書編集委員会編）上， 221-224, 2006.
- 3) Hashimoto, A., Sugita, T. and Haneda, S., Seeing how the Japan's quality-of-life has changed. Dept. Social Sysys Mgmt Discussion Pap. Ser. 1169, Univ. Tsukuba, 2007.

(2) 学会活動

- 1) レフェリー Review of Urban & Regional Development Studies

(3) 研究助成など

- 1) 科研費 基盤研究（C）代表

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：システム評価特論，システム評価決定論，数理計画実習

社会工学類：評価と決定，フレッシュマン 세미나

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：博士論文委員長，新カリキュラム実践的姿TF委員

社会工学類：総合科目編成委員，公開講座委員，学生委員，クラス担任

III. 社会的活動

- 1) Biographee Marquis Who's Who in the World (23rd ed.) 2006.

藤井 英次

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 『コア・テキスト 国際金融論』 新世社、2006年10月、336頁
- 2) Greater China: Re-emergence and Economic Integration (with Yin-Wong Cheung and Menzie Chinn), Hong Kong University Press, forthcoming.
- 3) “Exchange rate Pass-through in the Deflationary Japan: How Effective is the Yen's Depreciation for Fighting Deflation?,” in Michael Hutchison and Frank Westermann (eds.), Japan's Great Stagnation: Financial and Monetary Policy Lessons for Advanced Economies edited by MIT Press, June 2006.
- 4) “Cross-Country Relative Price Volatility: Effects of Market Structure” (with Yin-Wong Cheung), Review of International Economics, v. 14, n.5, November 2006, pp.836-48.
- 5) “The Illusion of Precision and the Role of the Renminbi in Regional Integration” (with Yin-Wong Cheung and Menzie Chinn), Prospects for Monetary and Financial Integration in East Asia: Dreams and Dilemmas edited by Koichi Hamada, Beate Reszat and Ulrich Volz, MIT Press, forthcoming.

ii) その他

- 1) “The Debate over Renminbi Undervaluation,” The Policy Report, Robert M. Lafollette School of Public Affairs, University of Wisconsin ? Madison, October 2006.
- 2) “The Overvaluation of the Renminbi undervaluation” (with Yin-Wong Cheung and Menzie Chinn), NBER Working Paper Series W12850, January 2007, National Bureau of Economic Research, Cambridge, Massachusetts.
- 3) “The Overvaluation of the Renminbi undervaluation” (with Yin-Wong Cheung and Menzie Chinn), CESifo Working Paper Series 1918, February 2007, CESifo, Munich, Germany.

iii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Hong Kong Economic Association Meeting, December 14-16, 2006.
- 2) “China-Japan Economic Relations: Will they hold?,” The Australia-Japan Research Centre and the Crawford School of Economics & Government, The Australian National University, February 5-6, 2007.

(2) 学会活動

- 1) レフリー: Journal of Money, Credit & Banking, Journal of Multinational Financial Management, Journal of Comparative Economics, Japan and the World Economy, Pacific Economic Review

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究 (C)
- 2) 日本経済研究奨励財団奨励金
- 3) 学術振興野村基金研究プロジェクト助成

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：国際貿易，国際金融論

社会工学類：国際マクロ経済学，グローバルシステム演習

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系：施設委員

システム情報工学研究科：将来構想委員 (大学院・学類連携タスクフォース)
，学生相談室長
社会工学類：学類運営委員，総合科目編成委員

III. 社会的活動

- 1) City University of Hong Kong, The All China Economics International Conference (The ACE International Conference) Review Panel Member (香港市
城大学全中国国際経済学会大会外部レビュー委員)
- 2) 国際協力銀行 (JBIC) 招待講演者

藤原 良叔

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 論文

- 1) R, Fuji-Hara, A. Munemasa and V. Tonchev, Hyperplane Partitions and Difference System of Sets, Journal of Combinatorial Theory, Ser. A., Vol.113, 1689-1698 (2006)
- 2) G. Ge , R. Fuji-Hara and Y. Miao, Further Combinatorial Constructions for Optimal Frequency-Hopping Sequences, Journal of Combinatorial Theory, Ser. A, Vol.113, 1699-1718 (2006)
- 3) Yuji Fujiwara and Ryoh Fuji-Hara, Frequency Hopping Sequences with Optimal Auto- and Cross-Correlation Properties and Related Codes, Proceedings of Tenth International Workshop on Algebraic and Combinatorial Coding Theory, 3-9 September 2006, Zvenigorod, Russia, 83-96 (2006)

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Interdisciplinary Mathematical and Statistical Techniques, SCRA 2006, September 1-4 2006, Lisbon, Portugal An Application of Balanced Arrays
- 2) Tenth International Workshop on Algebraic and Combinatorial Coding Theory, September 3-9, 2006, Zvenigorod, Russia, Frequency Hopping Sequences with Optimal Auto- and Cross-Correlation Properties and Related Codes

(2) 学会活動

- 1) Foundation Fellow : Institute of Combinatorics and its Applications
- 2) Editorial Board : Journal of Combinatorial Mathematics and Combinatorial Computing, Winnipeg Canada
- 3) Council member : Institute of Combinatorics and its Applications
- 4) レフリーイング (IEEE IT, JSPI , Discrete Mathematics その他)
- 5) AMS レビューイング (3-4 件)
- 6) 京都大学数理解析研究所 研究集会主催 (代表) 9月14 - 15 「組合せ理論の情報科学への応用」

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助 基盤研究 (C) 「ソフトウェア・テストに用いる検査計画の構成に関する研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：情報離散数学特講

社会工学類：経営工学情報処理実習，シミュレーション，経営の科学

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会システム工学専攻運営委員

社会工学類：カリキュラム委員，コンピュータ委員長

(3) 他大学における講義

- 1) 非常勤講師 日本大学生産工学部

松田 紀之

I. 研究活動

(1) 研究業績

- i) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Matsuda, N., and Higashihara, Y. (2006). Sense of trust, confidence and fiduciary expectations evoked by GMO-free labels. (in Japanese) (“非 GMO 表示にまつわる信頼-信用感と信認”) A paper presented at the 19th Annual Meeting of the Japanese Risk Society. The National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Tsukuba.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：行動科学特論（博士課程），心理情報分析，MBA 演習 I（修士課程）

社会工学類：経営工学概論，経営工学基礎演習，総合演習 - 社会システム分析

(2) 役職・各種委員会委員

全学：筑波大学発行「筑波フォーラム」副編集委員長，全学就職委員会委員

システム情報工学研究科：社会システム・マネジメント専攻広報委員会委員

社会工学類：社会工学類クラス担任（4年生）

焼田 党

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) “Life expectancy, money, and growth.” Journal of Population Economics 19, 579-592.
- 2) 「育児サービスの供給制約が女性労働と出生率に与える影響」白井・大住・釜田編著『公共経済学研究 IV』勁草書房、14-26.

(2) 学会活動

- 1) 日本応用経済学会理事、Applied Economic Studies(日本応用経済学会機関誌) 編集委員

- 2) レフェリー: Journal of Urban Economics, Journal of the Japanese and International Economies, Eastern Economic Journal, Finanzarchiv, OCU Economic Review, 生活経済研究

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金:基盤研究(C)「人口変動と人的資本形成に関する研究」
2) (財)簡易保険文化財団調査研究助成「経済格差社会における年金制度と子育て支援政策の政治経済学的研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：マクロ経済学特論，マクロ経済学

社会工学類：公共経済学，少子社会における社会経済学，社会基盤整備の社会経済学，21世紀少子高齢社会における社会工学政策演習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：入試実施委員長

社会工学類：カリキュラム委員長

山本 芳嗣

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Y. Yamamoto and D.Zenke, “Outer approximation method for the minimum maximal flow problem,” Journal of the Operations Research Society of Japan 50 (2007) 1, 14–30.
- 2) K. Ando, M. Tsurutani, M. Umezawa and Y.Yamamoto, “Impossibility and possibility theorems for social choice functions on incomplete preference profiles,” Pacific Journal of Optimization 3 (2007) 1, 11–25.
- 3) J. Wu, W. Yue, Y. Yamamoto and S. Wang, “Risk analysis of a pay to delay capacity reservation contracts,” Optimization Methods and Software

21 (2006) 4, 635–651.

ii) ディスカッションペーパー

- 1) D. Talman and Y. Yamamoto, “Games with limited communication structure,” Discussion Paper 1168, Department of Social Systems and Management, Graduate School of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba, February 2007.

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金基盤研究 (B) 「非対称地理データの分析とその視覚化」
- 2) みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社「銀行業務におけるさまざまな最適化問題についてのアドバイザリー」に対する研究助成

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：数理計画特論 1 ，数理計画特論 2 ，数学 1 ，数理計画

社会工学類：社会工学実習，微積分 II ，社会工学特設講義，社会工学特設講義

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会システムマネジメント専攻博士論文委員会委員

社会工学類：スポーツデー委員

吉田 あつし

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 西田喜平次・吉田あつし「歯科診療所の空間的競争と立地均衡」、応用地域学研究、No. 11、2006年、pp.95-107.

ii) ディスカッションペーパー

- 1) A. Yoshida and S. Takagi, “Physician-Patient Interaction and the Provision of Medical Services Under Different Co-payment Schemes,” Discussion Paper 1150, Department of Social System and Management, Graduate School of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba, June 2006.
- 2) A. Yoshida and A. Kawamura, “Who has Benefited from the Health Services System for the Elderly in Japan?” Discussion Paper 1164, Department of Social System and Management, Graduate School of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba, December 2006.
- 3) A. Yoshida, K. Kogure and K. Ushijima, “School Choice and Student Sorting: Evidence from Adachi City in Japan,” Discussion Paper 1170, Department of Social System and Management, Graduate School of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba, March 2007.

iii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) A. Yoshida, and S. Takagi, “How Does a Physician Change the Quantity of Medical Services Associated with the Different Co-payment Schemes?” presented at Far Eastern Meeting of The Econometric Society 2006 in Beijing, July 9 to July 10.
- 2) A. Yoshida, and S. Takagi, “How Does a Physician Change the Quantity of Medical Services Associated with the Different Co-payment Schemes?” presented at European Economic Association and the Econometric Society European Meetings 2006 in Vienna, August 24 to August 29.
- 3) 西田喜平次・吉田あつし、「歯科診療所の空間的競争と立地均衡」、日本経済学会春季大会、福島大学、2006年6月3日～6月4日。
- 4) 吉田あつし・川村顕、「歯科医院の参入・退出と医療費」、日本経済学会秋季大会、大阪市立大学、2006年10月21日～10月22日。
- 5) A. Yoshida, K. Kogure and K. Ushijima, “School Choice and Student Sorting: Evidence from Adachi City in Japan,” 関西計量経済学会、横浜シンポジア、2007年2月17日～2月18日。

(2) 学会活動

- 1) 「日本経済学会理事
- 2) 「日本統計学会誌」レフェリー
- 3) 「計画行政学会論文集」レフェリー

4) Journal of Japanese Statistical Association レフェリー

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費、基盤研究 (B)、「医療サービス産業の市場と組織に関する計量分析」、代表者。
- 2) 人文・社会科学振興プロジェクト研究事業受託研究、独立行政法人日本学術振興会、「医療システムと倫理」(医療システムと医療専門家組織、保険者、民間保険機関の役割)、コアリーダー。
- 3) 科学研究費、基盤研究 (A)(1)、「時空間統計解析の理論と応用」、分担者、(代表者：矢島美寛(東京大学))。

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：都市経済学特論，都市経済学

社会工学類：都市データ分析，高齢化社会における社会経済システム，都市と環境の経済学，都市地域学演習，統計

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 授業評価委員
- 2) 大学院入試委員

III. 社会的活動

- 1) つくば市、つくば市下水道審議会会長
- 2) (財) 関西社会経済研究所、リサーチ・フェロー (客員主任研究員)
- 3) (独) 日本学術振興会、科学研究費委員会専門委員
- 4) (財) 日本住宅総合センター、「住宅経済研究会」研究委員
- 5) (財) 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構、「国及び都道府県レベルでの医療費の決定要因分析」、「国及び都道府県レベルでの介護費の決定要因分析」に関する調査研究事業における委員
- 6) (財) 関西社会経済研究所、「平成 18 年度 少子高齢化の下での持続的成長と財政再建に関する国際共同研究調査」における「少子高齢化の下での国・地方の財政再建」グループ委員

吉田 雅敏

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Labor Taxation and Home Production (日本経済学会)

(2) 研究助成など

- 1) 科研費助成金 課題番号 18530227 研究課題名 公共サービス支出と家計生産に関する研究

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：財政学その他
社会工学類：経済原論その他

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 社会工学類長
- 2) 各種委員会委員：多数

助教授

秋山 英三

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Akiyama, E., “Dynamics of Coupled Players and the Evolution of Synchronous Cooperation — Dynamical Systems Games as General Frame for Systems Inter-Relationship,” EJTP Special Issue 2007 — Physics of Emergence and Organization, (2007), to appear
- 2) Hiromichi Kimura and Eizo Akiyama, “Grand Canonical Minority Game with Variable Strategy Spaces,” New Frontiers in Artificial Intelligence: Proceeding of the 19th Annual Conferences of the Japanese Society for Artificial Intelligence, 291-301, Springer-Verlag, (2006).
- 3) 杉崎裕治 and 秋山英三, 「友人ネットワーク形成における2者間と3者間の関係の構造化の違い」日本ソフトウェア科学会ネットワークが創発する知能研究会第2回ワークショップ (JWEIN2006) Proceedings, 97-104, (2006).
- 4) Suzuki. S. and Akiyama, E., “Evolution of compassion under un-repeated interaction,” the Proceedings of the First World Congress on Social Simulation (WCSS2006), Vol. 2 pp. 65-72, 2006.
- 5) Akiyama, E., “Wechselseitige Zusammenarbeit von Handelnden mit beschränkter Rationalität,” Denken, Handeln und Entscheiden (限定合理的主体における互恵的行動の可能性), Symposium zur Grundung einer Deutsch-Japanischen Akademie für integrative Wissenschaft, hrsg. von Daiseion-ji e.V. und der Wilhelm Gottfried Leibniz Gemeinschaft e.V., J. H. Roll Verlag, 2007. forthcoming.
- 6) 木村博道 and 秋山英三, 「日本の株式市場におけるゼロインテリジェンスモデルの説明力」, The Proceedings of the Joint Agent Workshop 2006 (JAWS 2006), 鈴鹿サーキットフラワーガーデンホテル, 8 pages (USBメモリによる配布) (2006).
- 7) Suzuki. S. and Akiyama, E., “Evolution of indirect reciprocity in groups of various sizes and comparison with direct reciprocity,” Journal of Theoretical Biology, Vol. 245, No. 3, pp. 539-552, 2007.
- 8) 木村博道 and 秋山英三, 「流動性指標に見るトレーダーの行動」, 数理モデ

- ル化と問題解決シンポジウム（複雑系の科学とその応用）論文集, pp. 57-62, 2006.
- 9) 鈴木真介 and 秋山英三, “Dynamics of indirect reciprocity in three-person game”, 数理モデル化と問題解決シンポジウム（複雑系の科学とその応用）論文集, pp. 209-216, 2006.
 - 10) 鈴木真介 and 秋山英三, “ n 人囚人のジレンマゲームにおける 2 種類の互恵的協力行動の進化”, 情報処理学会研究報告 [知能と複雑系], Vol. 2006, No. 37, pp. 7-12, 2006.
 - 11) 鈴木真介 and 秋山英三, “多人数グループ内での間接的互恵性の進化: Standing 評判基準の効果”, 情報処理学会論文誌, Vol. 47, No. 5, pp. 1463-1472, 2006.
 - 12) 秋山英三 「動的資源を巡る行動同期の機構と協力ルールの形成」, 人工知能学会知識ベースシステム研究会第 77 回研究会 (知能・適応と社会、ネットワーク) 論文集, pp. 57-63, 2007.
 - 13) 鈴木真介, 秋山英三 「多人数ゲームにおける間接互恵性の進化: 4 人ゲームの例」, 人工知能学会知識ベースシステム研究会第 77 回研究会 (知能・適応と社会、ネットワーク) 論文集, pp. 65-69, 2007.
 - 14) # 紀要秋山 英三, 「<わたしの講義> 進化ゲーム論」, 筑波フォーラム (筑波大学), 74 号, 138-141, 2006.

(2) 学会活動

- 1) 情報処理学会 知能と複雑系研究会 幹事
- 2) 日本ソフトウェア科学会 ネットワークが創発する知能研究会 プログラム委員
- 3) 電子情報通信学会論文誌編集委員会査読委員
- 4) 電子情報通信学会常任査読委員
- 5) 日本計算工学会査読委員

(3) 研究助成など

- 1) 科研費 若手研究 (B)、理論的分析と実験的検証による様々なジレンマ状況における評判の効果に関する研究
- 2) 科研費 基盤研究 (S)、グローバル公共財としての「地球秩序」に関するシミュレーション分析 (分担者分担金有)

(4) その他

- 1) 学会賞の受賞など

II. 研究活動

(1) 研究業績

システム情報工学研究科：応用ゲーム論

社会工学類：社会工学実習，プログラミング実習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：コンピュータ委員会，広報委員会

社会工学類：コンピュータ委員，非常勤講師審査委員

III. 社会的活動

- 1) 政府，地方公共団体，独立行政法人，財団，NPO法人，民間企業などの役職・各種委員，客員研究員，講演など．
- 2) 2006/11/7 茨城県立竹園高等学校 筑波大学紹介授業

有田 智一

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Peter K. Kamau, Kenjiro Omura and Tomokazu Arita, “Factors that affect self-build housing in Nairobi, Kenya,” Urban Housing Sciences, 2006, Spring, pp78-85.
- 2) Ping-li CHEN, Sayaka FUJII, Tomokazu ARITA, Kenjiro OMURA, “The Constraints on Married Women’s Everyday Lives in Time and Space in Taipei- from the Viewpoint of the Preparation of Meals,” Proceedings of International Symposium on Urban Planning 2006, pp247-259.
- 3) Sayaka FUJII, Tomokazu ARITA, Kenjiro OMURA, The Impact of the “Urban Renaissance” Policy in Japan, Proceedings of International Symposium on Urban Planning 2006, pp451-461.

- 4) 阿藤卓弥、大村謙二郎、有田智一、藤井さやか、「首都圏郊外における鉄道駅前商業集積の停滞実態とその課題 -本厚木駅・小田原駅前地区を対象として-」、『都市計画論文集』、2006、vol.41, No.3, pp1037-1042.
- 5) 市川美穂子、大村謙二郎、有田智一、藤井さやか、「地方都市における医療施設の新規立地による周辺影響と立地誘導の方向性」、『都市計画論文集』、2006、vol.41, No.3, pp 803-808.
- 6) 山口美貴、大村謙二郎、有田智一「大規模都市開発における行政・企画提案主体・市民による協議の実態と課題 -再開発等促進区と都市計画契約を活用したBプランの協議プロセスの比較を通じて-」、『都市計画論文集』、2006、vol.41, No.3, pp 301-306.
- 7) 北崎朋希、大村謙二郎、有田智一、「開発許可運用基準における商業系立地コントロール手法の限界と可能性- 都市計画法 34 条 1 号及び 8 号運用基準による商業系立地コントロール手法を対象として -」、『都市計画論文集』、2006、vol.41, No.3, pp 295-300.
- 8) 村本浩一、鷄内久之、仲村隆、蛭田晃生、藤井さやか、有田智一、大村謙二郎、「企業城下町における郊外戸建住宅地の課題と再生の方向性- 日立市におけるケーススタディー」、『都市住宅学：第 14 回学術講演会研究論文』、2006、Vol.55, pp64-69.
- 9) 太田尚孝、大村謙二郎、有田智一、藤井さやか、「旧東独都市における総合的市街地再生の試み」、『都市住宅学：第 14 回学術講演会研究論文』、2006、Vol.55, pp58-63.
- 10) Philip McCann and Tomokazu Arita, “Clusters and Regional Development: Some Cautionary observations from the semiconductor industry,” Information Economics and Policy, 2006, Vol.18, pp157-180.
- 11) Tomokazu Arita, Masahisa Fujita and Yoshihiro Kameyama, “Effects of regional cooperation among small and medium-sized firms on their growth in Japanese industrial clusters”, Review of Urban and Regional Development Studies, Vol.18, No.3, pp209-228.
- 12) 陳秉立、藤井さやか、有田智一、大村謙二郎、「台湾における計画的住宅地開発の課題と計画論 - 既婚女性の購買施設利用から -」、『財団法人住宅総合研究財団研究年報』、No.33、2006 年度報告書.
- 13) 北崎 朋希、村本 浩一、阿藤 卓哉、市川 美穂子、有田 智一、藤井 さやか、大村 謙二郎「企業城下町日立における日立製作所の社宅・寮整備の返還と現状」、『都市住宅学：第 14 回学術講演会研究論文』、2006、Vol.55, pp114-119.

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会建築法制委員会集団規定の性能規定化問題小委員会委員
- 2) 日本都市計画学会事業委員会委員
- 3) 日本都市計画学会学術委員会委員
- 4) 都市住宅学会学会賞委員会委員

(3) 研究助成など

1) 科研費

1. 「ドイツを中心とした EU における地域整備に関わる地域ガバナンスの実態と展開の研究」(2006-7:萌芽研究)、研究分担者

2) 受託研究

1. 「アメリカにおける地域クラスターの形成と都市形成の関連性：オースティン都市圏を対象にして」、財団法人計量計画研究所 (IBSフェロースhip、2006年、研究代表)
2. 「住民組織による居住環境管理の実態と支援方策に関する研究」、財団法人土地総合研究所、2006年、研究分担者
3. 「大和町北地区まちづくりに関する研究」、土浦市、2006年、研究分担者
4. 「不適切な土地利用マネジメントに関する調査研究」、財団法人土地総合研究所、2006年、研究分担者
5. 「TXハビテーションに関する調査研究」、株式会社アフタヌーンソーエティ、2006年、研究分担者

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：都市経済学演習（博士課程）、都市・環境政策学、MBA-MPP 特講（経営・政策科学専攻）、都市・環境システム特別講義（社会システム工学専攻）

社会工学類：現代都市環境論、都市と環境の経済学、現代まちづくりの理論と実践、都市計画マスタープラン策定演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 大学本部学長室室員 (学長補佐)
- 2) 大学院 3 専攻合同入試実施委員 (経営・政策科学研究科入試委員長)
- 3) 新カリキュラム実践的姿検討タスクフォース委員

- 4) 就職委員会委員
- 5) 学類3年生都市計画分野クラス担任

III. 社会的活動

- 1) 東京都江戸川区都市計画審議会委員
- 2) 道路環境影響評価の技術手法改定検討委員会委員(国土交通省国土技術政策総合研究所)
- 3) 埼玉県都市計画審議会専門委員
- 4) 財団法人再開発コーディネーター協会試験講習委員会委員
- 5) シンポジウム「点から線へ、線から面への防災まちづくりの実務 路地空間の保全との両立をめざして 狭あい道路と密集住宅市街地の計画的整備～安全、快適、魅力的な街・路地空間を創るための制度と取り組み事例～」(主催 地域科学研究会): 2006年6月22日(木)於東京、コーディネーター

石井 健一

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 審査つき論文

- 1) Implications of Mobility: The Uses of Personal Communication Media in Everyday Life. Journal of Communication, 56(2), 346-365. (単独執筆)、2006年

ii) 著書

- 1) ファッション雑誌広告にみる欧米志向 『広告の文化論』(真鍋一史編著) 日経広告研究所 pp.191-206. 2006年
- 2) 広告の内容分析 『広告の文化論』(真鍋一史編著) 日経広告研究所 pp.169-190. 2006年
- 3) 『日本人の情報行動2005』(分担執筆) 東京大学出版会. 2006年
- 4) Japan: Mobile and Broadband—Two Emerging Business Models in the World's Third Largest Broadband User. In Webcasting Worldwide Business Models of an Emerging Global Medium edited by Louisa S. Ha & Richard J. Ganahl,

III. (Chapter 17, pp.335-356.) Lawrence Erlbaum Associates. (with Morihiro Ogasahara). (分担執筆) 2006年

iii) 論文

- 1) 調査からみたネット利用、対人関係、社会心理の日韓比較、平成17年度科学研究費補助金研究成果報告書(研究代表者・橋元良明)(分担執筆)、2006年6月.
- 2) ネット利用とオンライン・コミュニティの日韓比較、東京大学情報学環調査研究紀要、no.24、1-47、(分担執筆)、2007年3月.

(2) 学会活動

- 1) レフェリー (Telecommunications Policy)、日中社会学研究

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費 (B)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：社会調査論，消費者行動特論

社会工学類：経済システム情報処理，戦略行動システム実習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：広報委員

社会工学類：クラス担任，学生担当委員

(3) 博士論文審査委員の委嘱

- 1) 東京大学大学院人文社会系研究科 (一件)
- 2) 筑波大学大学院人文社会学研究科 (一件)

江口 匡太

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 学術論文

- 1) “Productivity Loss and Reinstatement as a Legal Remedy for Unjust Dismissal”, *Journal of the Japanese and International Economies*, vol.21 (2007) 78-105.

ii) その他

- 1) 整理解雇法理と経済活動3 (共著) (第7章) (雇用の多様化、流動化、高度化などによる労働市場の構造変化への対応策に関する調査研究報告書所収 雇用能力開発機構&統計研究会 (2006)
- 2) 書評 週刊東洋経済 2006年9月9日号 ジェフリー・サックス著 (鈴木主悦・野中邦子訳) 「貧困の終焉」 (早川書房)
- 3) 書評 週刊東洋経済 2007年3月3日号 福井秀夫・大竹文雄編「脱格差社会と雇用法制」(日本評論社)

(2) 学会活動

- 1) レフェリー 「季刊 家計経済研究」

(3) 研究助成など

- 1) 科研費若手研究(B)、解雇法制における契約の不完備性と社会規範形成の研究
- 2) 科研費基盤研究(B)、企業リストラクチャリングの代替的手法(分担者分担金有)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：労働経済論

社会工学類：経済学入門，ミクロ経済学，労働経済学，公共エリアシステム演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 学類運営委員
- 2) 学類・大学院連携タスクフォース委員
- 3) 学類同窓会準備委員会委員
- 4) 短期博士課程在学コース検討タスクフォース委員

III. 社会的活動

- 1) (財)統計研究会労働市場研究委員

太田 充

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 佐藤仁志、太田充、今井重男、「地域労働市場における雇用のミスマッチに関する研究」、第20回応用地域学会研究発表大会、於広島大学経済学部(口頭発表)
- 2) 佐藤仁志、太田充、「首都圏における通勤家計の居住地選択モデル」、地域学研究 第36巻 第4号、885-896

(2) 学会活動

- 1) 査読委員(日本都市計画学会1編)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：地域科学特論，都市地域計画，シミュレーション実習

社会工学類：プログラミング実習，空間と交通の経済学，地域と地域間の経済学，都市地域経済学演習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：広報委員長

社会工学類：広報委員長

岡本 直久

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Long Term Simulation of Family Car Trips for the Allocation of Alternative Fuel Stations Electronic; Proceedings of International Conference on Hybrid Information Technology, ITS Modeling and Analysis 1, Morito TSUTSUMI, Haruo ISHIDA, Naohisa OKAMOTO, Yoshio Sekine, 2006.11
- 2) Highway Capacity Analysis with Weather Condition; Proceedings of 12TH REAAA International Conference(CD-ROM), Naohisa OKAMOTO, Haruo ISHIDA, 2006.11

(2) 学会活動

- 1) Eastern Asia Society for Transportation Studies, Secretariat
- 2) 土木学会 土木計画学研究委員会学術委員
- 3) 日本交通学会 編集委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費基盤研究(C)：鉄道新線沿線地域におけるモビリティ・マネジメント方策の実験的实施とその効果の検証：代表
- 2) 科学研究費基盤研究(B)：乗用車の長期的走行再現シミュレータの開発と代替燃料車普及戦略への応用：分担（代表：石田東生）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：都市システム計画，情報科学演習（経営・政策科学専攻），プロジェクト評価特論（社会システム工学専攻）

社会工学類：都市と地域の経営・行政論，交通計画，社会基盤整備と地域・国土計画，社会基盤整備の社会経済学，社会基盤の未来演習，情報リテラシー演習，都市計画マスタープラン策定実習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会システム工学専攻・経営政策科学専攻 修士論文委員

III. 社会的活動

- 1) 茨城県交通安全・要対策トップ10ブロック会議 委員長
- 2) 茨城県移動性向上委員会 委員長
- 3) 水戸都市圏渋滞対策プロジェクト委員会 委員長
- 4) 第8回全国貨物純流動調査委員会 委員

繁野 麻衣子

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Maiko SHIGENO, “Maximum flows with concave gains,” *Mathematical Programming* 107 (2006) 439-459
- 2) HOU Zhe and SHIGENO Maiko, New Bounds on the Minimum Calls of Failure-Tolerant Gossiping Discussion Paper 1167

(2) 学会活動

- 1) 情報処理学会アルゴリズム研究運営委員会運営委員
- 2) レフェリー：Mathematical Programming, Information Processing Letters, Journal of Operations Research Society of Japan
- 3) 日本応用数理学会年会実行委員

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：離散システム特論, 数学 I, 数学 II

社会工学類：数理計画, 計算機科学, 数理工学モデル化実習, 問題発見と解決, フレッシュマンセミナー

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：修論委員，新入生オリエンテーション委員，学生
相談委員

社会工学類：クラス担任

鈴木 秀男

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 研究業績等

- 1) 鈴木秀男, 細川直幸, 中西慶彰, 内藤征吾, 村田剛他, 「Web アクセスログデータを用いたサイト内におけるページ間の関連性分析」, 平成 18 年度 CRM 研究会データ解析コンペティション最終発表会, 場所：専修大学神田キャンパス 2007 年 2 月 3 日 .
- 2) 山崎健史, 鈴木秀男 「口コミ効果を考慮した消費者評価構造に関する研究」, 日本品質管理学会, 会場; 筑波大学, 2006 年 10 月 28 日, 第 36 回年次大会研究発表要旨, pp.63-66.
- 3) Hideo Suzuki and Akira Saji, “ A Quality Control Method Using One Class Support Vector Machines ”, The Proceeding of 3rd ANQ Congress, 2007, SE2.
- 4) Takashi Yamazaki, Hideo Suzuki and Shinji Matsuzawa, “ A Scoring Method for Customer Satisfaction, Experience Value and Loyalty ”, The Proceeding of 3rd ANQ Congress, 2007, QS13.
- 5) 鈴木秀男, 山崎健史, 松澤 信二 「顧客満足度, 経験価値及びロイヤルティの測定モデルの構築」, 日本品質管理学会, 会場;(財) 日本科学技術連盟, 2006 年 5 月 27 日, 第 80 回研究発表要旨, pp.315-318 .
- 6) 鈴木秀男, 寺田聡太郎, 森村 淳, 「プロ野球ファンサービスに関する調査研究 - 西武ライオンズを事例にして - 」, 日本品質管理学会, 会場;(財) 日本科学技術連盟, 2006 年 5 月 27 日, 第 80 回研究発表要旨, pp.311-314.

(2) 学会活動

- 1) (社) 日本品質管理学会 理事
- 2) (社) 日本品質管理学会論文誌編集委員会委員

(3) 研究助成など

- 1) 筑波大学 2006年度システム情報工学研究科プロジェクト(分担),「サービス・サイエンスの創成とサービスにおけるイノベーションへの貢献」.
- 2) 共同研究(共同研究相手方:株式会社クロス・ビー)(代表),54,200円,「スポーツコンテンツ価値の定量化,経済価値との連動化」.
- 3) 一般受託研究(委託者:社団法人全国モーターボート競走会連合会)(代表),140千円,「競艇場のファンサービスに関する調査研究」.
- 4) 共同研究(共同研究相手方:株式会社西武ライオンズ),「プロ野球ファンサービス調査に関する共同研究」.

(4) その他

- 1) H17年度筑波大学大学院システム情報工学研究科教育貢献表彰(経営・政策科学専攻推薦)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科:品質管理,特定課題研究
社会工学類:数理工学モデル化実習,生産・品質管理

(2) 役職・各種委員会委員

大学院・学類連携:TF委員
システム情報工学研究科:3専攻合同委員会運営委員会委員,修士論文・特定課題研委員会委員

(3) 他大学における講義

- 1) 東京経済大学非常勤講師
- 2) (財)日本規格協会「2006年度実験計画法セミナー入門コース」講師

III. 社会的活動

- 1) (財)日本規格協会 品質管理検定(QC検定)運営委員会委員

張 勇兵

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) J. Phuritatkul, Y. Ji, and Y. Zhang, Blocking probability of a preemption-based bandwidth-allocation scheme for service differentiation in OBS network, IEEE/OSA J. of Lightwave Technology (JLT) , Vol. 24, No. 8, pp. 2986-2997, (August 2006).
- 2) H. Takagi, Y. Zhang, and H. Takagi, Reconfiguration heuristics for logical topologies in wide-area WDM networks, IEICE Trans. on Communications, Vol. E89-B, No. 7, pp. 1994-2001, (July 2006).
- 3) Y. He, Y. Zhang, Y. Ji, and X. Shen, A New Energy Efficient Approach by Separating Data Collection and Data Report in Wireless Sensor Networks, 2006 International Wireless Communications and Mobile Computing Conference (IWCMC 2006), Vancouver, Canada, ACM Press, pp. 1165-1170 (July 2006).

(2) 学会活動

- 1) 電子情報通信学会 , テレコミュニケーションマネジメント研究専門委員会委員
- 2) 情報処理学会論文編集委員会ネットワークグループ委員
- 3) Program Committee, 16th Int. Conf. Computer Communications and Networks (ICCCN2007) , Honolulu, Hawaii, August 13-16, 2007.
- 4) Program Committee, Networking 2007, Atlanta, Georgia, May 14-18, 2007.
- 5) Program Committee, International Wireless Communications and Mobile Computing Conference 2007 (IWCMC 2007), Honolulu, Hawaii, August 12-16, 2007.
- 6) Program Committee, Asia-Pacific Network Operations and Management Symposium (APNOMS 2006), Busan, Korea, September 27-29, 2006.
- 7) 査読員 : IEEE J. Selected Areas in Communications, IEICE Trans. Communications, IEEE Network Magazine, IEEE Trans. Wireless Communications, 情報処理学会論文誌 , International J. Sensor Networks, The 3rd IEEE Int. Conf. Mobile Ad-hoc and Sensor Systems (MASS2006).

(3) 研究助成など

- 1) 平成18年 国立情報学研究所共同研究費 分担研究者 次世代情報通信ネットワークにおける経路制御方式に関する研究

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：情報ネットワーク特論，シミュレーション，シミュレーション実習

社会工学類：経営工学情報実習，情報技術実験，情報ネットワーク

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会工学システム専攻機器購入委員，計算機運用委員会委員，機器委員会委員，サテライト運用委員会委員

社会工学類：コンピュータ委員会委員，第3学群サブネット委員会委員

堤 盛人

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 土木学会編 『バスサービス ハンドブック』，土木学会，2006。（分担執筆）第4章6節：「路線網設計」（若菜千穂氏・高山純一氏と共同執筆）（pp.304-318）
- 2) Morito Tsutsumi, Haruo Ishida, Naohisa Okamoto, Yoshio Sekine: Long Term Simulation of Family Car Trips for the Allocation of Alternative Fuel Stations, Electronic Proceedings of ICHIT (International Conference on Hybrid Information Technology) Special Sessions: ITS Modelling and Analysis 1, 2006.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 宮崎文生・石田東生・岡本直久・堤盛人・谷口綾子：効率的なTFP対象者の選定に関する研究～つくば市および周辺地域を例として～，『土木計画学研究・講演集』，Vol.33，（CD-ROM 講演番号：8），2006.

- 2) 市橋堯行・石田東生・岡本直久・堤盛人・小川華奈：シーニックバイウェイ北海道活動が関係者間の協働と意識に与えた影響、『土木計画学研究・講演集』, Vol.33, (CD-ROM 講演番号：206), 2006.
- 3) Morito Tsutsumi, Yasushi Yoshida, Hajime Seya, Yuichiro Kawaguchi: A Bayesian Approach to Data Inadequacy Problem in Real Estate: Case Study on Apartment Rent Modeling, International Workshop on Bayesian Statistics and Applied Econometrics p.9-11, 2006. (presented at the International Workshop on Bayesian Statistics and Applied Econometrics, Tohoku University, Sendai, October 31-November 1, 2006.)
- 4) Morito Tsutsumi, Yasushi Yoshida, Hajime Seya, Yuichiro Kawaguchi: Bayesian Spatial Modeling for Apartment Rent in Tokyo, the International Symposium on Statistical Analysis of Spatio-Temporal Data, pp.66-69, 2006 (presented at the International Symposium on Statistical Analysis of Spatio-Temporal Data, The University of Tokyo, Tokyo, November 13-15, 2006.)
- 5) 瀬谷創・堤盛人・井上亮・石田東生・岡本直久：「計量経済学の考え方を援用したクリギングによるデータ内挿」『日本写真測量学会 平成18年度 秋季学術講演会 講演集』, pp.51-54, 2006.
- 6) 石田東生・堤盛人・岡本直久・関根喜雄：自家用自動車の長期間移動再現シミュレータを用いた代替燃料スタンド配置に関する研究、『土木計画学研究・講演集』, Vol.34, (CD-ROM 講演番号：98), 2006.
- 7) Marie Danielle Guillen, Haruo Ishida, Naohisa Okamoto, Morito Tsutsumi and Ayako Taniguchi: Understanding the Informal Public Transport Presence along the Mintal-Tugbok-Calinan Route in Davao City, Philippines: An Exploratory Study, Proceedings of Infrastructure Planning, Vol.34, (CD-ROM No.282), 2006.
- 8) 瀬谷創・堤盛人・井上亮・石田東生・岡本直久：「covariogram に移動平均モデルを用いた時空間 Kriging」, 応用地域学会, 12月9日～10日, 2006, 広島.
- 9) 堤盛人・吉田靖・瀬谷創・川口有一郎：「空間的相関とデータ欠損問題を考慮した不動産賃料推定モデル：東京23区における賃貸マンションのデータを用いた実証分析」, 『日本不動産金融工学会2007年定期大会予稿集』, 2007, 東京.

(2) 学会活動

- 1) 日本写真測量学会 評議員
- 2) 日本写真測量学会 学術講演会 実行委員会 委員
- 3) 土木学会 生活交通サービス研究小委員会 委員 (分科会幹事)

- 4) 国際交通ネットワーク戦略研究小委員会 委員 (分科会幹事)
- 5) 日本不動産金融工学学会 研究会企画委員会 委員 (2006 年前期講習会・後期講習会 講師)
- 6) 査読委員：土木計画学研究・論文集 No.23, 写真測量とリモートセンシング

(3) 研究助成など

- 1) 研究代表者 平成 17 年度～18 年度 文部科学省科学研究費補助金・若手研究(B)「我が国の測量業の特徴と今後のあり方に関する研究」
- 2) 研究分担者 平成 18 年度 国立環境研究所 受託研究「技術革新と需要変化を見据えた交通部門の CO2 削減中長期戦略に関する研究(リードタイムを考慮した対策技術導入の効果評価と政策手段に関する研究)」(研究代表者：石田東生)
- 3) 研究分担者 平成 17 年度～20 年度 文部科学省科学研究費補助金・基盤研究 A「地理情報科学の教授法の確立 - 大学でいかに効果的に GIS を教えるか - 」(研究代表者：村山祐司(筑波大学・大学院生命環境科学研究科・教授))
- 4) 研究分担者 平成 18 年度～19 年度「都市再生政策評価のための経済モデルの開発」(研究代表者：上田孝行(東京大学・大学院工学系研究科・教授))
- 5) 研究分担者 平成 18 年度～20 年度「乗用車の長期的走行再現シミュレータの開発と代替燃料車普及戦略への応用」(研究代表者：石田東生)
- 6) 研究分担者 平成 18 年度～19 年度「鉄道新線地域におけるモビリティ・マネジメント方策の実験的实施とその効果の検証」(研究代表者：岡本直久)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：交通システム分析演習，空間計量管理計画

社会工学類：線形代数，社会基盤整備と地域・国土計画(分担)，プロジェクトの評価とファイナンス(分担)，都市計画マスタープラン策定実習(共同)，社会基盤政策の未来演習(共同)，都市データ分析(分担)，東京の都市学(分担)

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：3 専攻合同運営委員会委員，新カリキュラム実践的姿検討タスクフォースメンバー

(3) 受賞

- 1) 教育貢献賞（筑波大学 大学院システム情報工学研究科）

III. 社会的活動

- 1) 財務省 『庁舎等の売却・証券化手法についての検討会』 委員
- 2) 社団法人日本測量協会 機関誌月刊『測量』編集委員会 委員
- 3) 国土交通省 『暮らし・にぎわい再生事業の費用便益分析手法検討会』
委員
- 4) 稲敷市 『公共交通検討委員会』 会長

永易 淳

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Putting the dividend-price ratio under the microscope, forthcoming, Finance Research Letters; 30th Anniversary of the Journal of Banking and Finance Conference, Beijing, China 発表.
- 2) Japanese stock movements from 1991 to 2005: evidence from high and low frequency data, forthcoming, Applied Financial Economics.
- 3) Empirical analysis of the exchange rate channel in Japan, forthcoming, Journal of International Money and Finance.
- 4) Modeling and predicting Japanese stock returns using the ARFIMA-FIGARCH, forthcoming, W.Milo, P.Wdowinski 編集 Advances in Financial Market Analysis, Vol 2, Financial Markets: Principles of Modelling, Forecasting and Decision-Making (Lodz, Lodz Uni Press).
- 5) Financial market integration: evidence from stock and bond markets in Japan and the US, 2006, J A Batten, T A Fetherston, P G Szilagyi 編集 Japanese Fixed Income Markets: Money, Bond, and Interest Rate Derivatives (Amsterdam, Elsevier) 10月 413-433.
- 6) Purchasing power parity: further evidence from Japanese municipal data, 2006, Department of Social Systems and Management, Discussion Paper Series No. 1158; 日本経済学会 (福島), Western Economic Association International (Beijing) 発表.

- 7) The purchasing power parity and the Balassa-Samuelson effect: evidence from Chinese provincial data. All China Economic International Conference, Hong Kong, China 発表.
- 8) Some evidence on the effectiveness of a Tobin tax from the US equity market, 共著 I Marsh, Cass Business School, London, Exeter University, Warwick University 発表.
- 9) The real exchange rate and real interest rate differential relation whilst accounting for potential structural breaks 共著 J Byrne, Glasgow University, UK.
- 10) ヘラクレス取引所における投資家の情報量 2007 多目的統計データバンク年報 (平成 18 度) No. 83(3月) 共著 玉井恵美 63-72 (ISSN 1349-4112).

(2) 学会活動

- 1) レフリー : Global Finance Journal, Journal of International Economics
- 2) 討論者 : 日本金融学会、Western Economic Association International

(3) 研究助成など

- 1) 日本学術振興会 科学研究費補助金事業 萌芽研究 (研究代表者)
- 2) 日本学術振興会 国際学会派遣等事業
- 3) 財団法人 全国銀行学術研究振興財団 (研究代表者)
- 4) 国際開発高等教育機構 研究フェロープログラム [研究発表助成]
- 5) 村田学術振興財団 (研究代表者)
- 6) 筑波大学大学院システム情報工学研究科重点配分 (研究代表者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科 : 博士論文, 金融システム論, 計量開発分析, 特定課題研究, 修士論文

社会工学類 : 経済政策分析, 経済入門 2, 卒業論文

(2) 役職・各種委員会委員

全学 : データバンク委員

システム情報工学研究科 : 大学院運営委員, 修士論文委員, 経営・政策科学

専攻顧問教員，短期大学院コース・タスクフォース
社会工学類：社会経済専攻 4 年次クラス担当

III. 社会的活動

- 1) 国際通貨基金 コンサルタント

藤川 昌樹

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 藤川昌樹「高野山の山内空間と建築」(『高野山と密教文化』、高野山大学選書 1、pp.106-117、小学館スクウェア、2006 年 9 月)
- 2) FUJIKAWA Masaki 'Urban History, Historic Buildings, and Urban Preservation : Preservation Study of Makabe Town in the city of Sakuragawa in Ibaraki Prefecture, Japan', Reassessing East Asia in the Light of Urban and Architectural History, Proceedings II, pp.541-547, 2006.12(Kyoto)
- 3) 藤川昌樹「京都の都市史と都市保存-北京との比較の視点から-」(渡辺俊編『東アジアにおける首都の近代化と都市保存』pp.49-53, 113-118, 174-178, 「伝統的都市における街区保存手法の日中比較」研究会、2006 年 12 月)
- 4) 堀江亨・安藤邦廣・後藤治・藤川昌樹・黒坂貴裕・中野茂夫「つくば市の農家における小屋組の変遷：架構の発達と空間構成との関係」(『日本建築学会計画系論文報告集』613, pp.65-72, 2007 年 3 月)

ii) その他

- 1) 藤川昌樹「真壁の町並み調査とまちづくり」(『広報さくらがわ』29、pp.2-3、2006 年 12 月)
- 2) 藤川昌樹「桜川市真壁町の伝統的建造物群保存対策調査」(『筑波大学環境報告書』、pp.36-37、2006 年 9 月)
- 3) 藤川昌樹「日本からみた北京の都市保存」(科学研究費「街区保存手法の日中比較」白川村 Workshop、2006 年 5 月)
- 4) 藤川昌樹「「空間の歴史理論」から「場の履歴の顕現」へ」(筑波大学社会工学系ファカルティセミナー、2006 年 6 月)

(2) 学会活動

- 1) 日本都市計画学会学術委員
- 2) 作事史料を読む会幹事
- 3) レフェリー（日本建築学会、建築史学会）

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費・基盤研究（B）「街区保存手法の日中比較 北京と京都を事例として」（研究代表者）
- 2) 科学研究費・萌芽研究「積層パターンに着目した都市居住環境史の再構築」（研究代表者）
- 3) 科学研究費・外国人特別研究員奨励費「伝統的都市空間の変容過程に即した保存・整備手法に関する日中比較研究」（研究代表者）
- 4) 科学研究費・基盤研究（A）「大規模武家文書群による中・近世史料学の統合的研究」（研究分担者）
- 5) 科学研究費・基盤研究（S）「中近世風俗画の高精細デジタル画像化と絵画史料学的研究」（研究分担者）
- 6) 科学研究費・基盤研究（C）「紀ノ川との関係からみた宿場町橋本の建築史的・都市的研究」（研究分担者）
- 7) 文部科学省・先進的の大学改革推進委託事業「博士課程「短期在学コース」の創設に係る課題等に関する調査研究」（研究分担者）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：都市居住環境史演習

人間総合科学研究科：都市遺産論

環境科学研究科：環境計画史，環境科学実習，環境科学 III

社会工学類：都市環境保全計画，都市空間の歴史，まちづくりと空間設計の歴史と思想，アメニティ創造のまちづくり実習，東京の都市学

総合科目：都市・地域・環境を探る

(2) 役職・各種委員会委員

環境科学研究科：環境科学実習委員

システム情報工学研究科：カリキュラム委員，博士論文委員，アスベスト対

策工事委員会委員

III. 社会的活動

- 1) 室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
- 2) 真壁町伝統的建造物群保存対策調査検討委員会委員（茨城県）
- 3) 真壁城跡整備検討委員会委員（茨城県）
- 4) 講演：藤川昌樹「真壁の歴史的景観資源とその保存」(桜川市真壁町伝統的建造物群保存対策調査住民報告会、桜川市真壁福祉センター集会室、2006年8月6日)
- 5) 講演：藤川昌樹「つくばの歴史的ストックと景観形成」(NPO法人つくば建築研究会主催 市民シンポジウム『つくばの魅力的なまちづくり』、エポカルつくば、2006年12月2日)

三橋 平

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Alcantara, Lailani Laynesa, Hitoshi Mitsuhashi & Yasuo Hoshino. 2006. Legitimacy in international joint ventures: It is still needed. *Journal of International Management*, 12: 389-407.
- 2) Greve, Henrich R. & Hitoshi Mitsuhashi. Forthcoming. Power and glory: Concentrated power in top management teams. *Organization Studies*.
- 3) Sine, Wesley D., Robert David & Hitoshi Mitsuhashi. Forthcoming. From plan to plant: Effects of certification on operational start-up in the emergent independent power sector. *Organization Science*.
- 4) Yokota, Riu & Hitoshi Mitsuhashi. Forthcoming. Forthcoming. Attributive change in top management teams as a driver of strategic change. *Asia Pacific Journal of Management*.
- 5) Alcantara, Lailani Laynesa, Hitoshi Mitsuhashi & Yasuo Hoshino. 2006. Interorganizational Linkages and Local Market Penetration of International Joint Ventures. The 5th Asia Academy of Management Conference CD-ROM (Tokyo, Japan).
- 6) Mitsuhashi, Hitoshi. 2006. Path-dependent and Path-breaking Change of

Supplier Networks. The 5th Asia Academy of Management Conference CD-ROM (Tokyo, Japan).

- 7) Mitsuhashi, Hitoshi. 2007. The model of right-hand people: CEO power and turnover in the Japanese automobile assemblers. A paper presented at the Academy of Management Meeting, OMT Division, Philadelphia, PA.

(2) 学会活動

- 1) アドホック・レビューアー Organization Science, Organization Studies, Academy of Management Conference

(3) 研究助成など

- 1) 日本学術振興会 科学研究費 若手研究 B (研究代表者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：経営戦略論，特定課題研究

社会工学類：社会工学実習，マネジメント実習，経営の科学，少子高齢化社会の労働・雇用

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学類：学類カリキュラム委員

繆 瑩

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) G. Ge and Y. Miao, PBDs, Frames, and Resolvability, in: C. J. Colbourn and J. H. Dinitz (eds.), The CRC Handbook of Combinatorial Designs, Second Edition, CRC Press, Boca Raton, 2006, pp. 261-265.

- 2) Z. Cao, G. Ge and Y. Miao, Combinatorial characterizations of one-coincidence frequency-hopping sequences, *Designs, Codes and Cryptography* 41 (2006), 177-184.
- 3) G. Ge, R. Fuji-Hara and Y. Miao, Further combinatorial constructions for optimal frequency-hopping sequences, *Journal of Combinatorial Theory, Series A*, 113 (2006), 1699-1718.
- 4) G. Ge, Y. Miao and L. Zhu, GOB designs for authentication codes with arbitration, *Designs, Codes and Cryptography* 40 (2006), 303-317.
- 5) L. Wang, E. Okamoto, Y. Miao, T. Okamoto and H. Doi, ID-based series-parallel multisignature schemes for multi-messages from bilinear maps, *Lecture Notes in Computer Science* 3969 (2006), 291-303.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Y. Miao, Combinatorial design theory and its selected applications to information management, Laboratory of Management, Decision and Information Systems, Chinese Academy of Sciences, Beijing, China, October 20, 2006.
- 2) Y. Miao, 組合せ論を用いた遺伝子情報解析 (招待講演), 「組合せ理論の情報科学への応用」研究集会, 京都大学数理解析研究所, 平成 18 年 9 月 14 日-9 月 15 日.
- 3) Y. Miao, Designs, codes and cryptography: some of their links (Invited talk), 2006 International Workshop on Design Theory and The 2nd National Workshop on Design Theory and its Applications, Beidaihe, China, Aug. 12-14, 2006.

(2) 学会活動

- 1) Editor: *Graphs and Combinatorics*, Springer.
- 2) Editor: *Journal of Combinatorial Designs*, John Wiley & Sons.
- 3) 共同主催者: 研究集会「デザイン理論とその周辺」, 山形県上山市葉山 5-20, 日本の宿 古窯, 平成 18 年 11 月 20 日-22 日.
- 4) Referee for: *Australasian Journal of Combinatorics*; *Electronic Journal of Combinatorics*; *Designs, Codes and Cryptography*; *Discrete Mathematics*; *Graphs and Combinatorics*; *IEEE Transactions on Information Theory*; *Journal of Combinatorial Designs*; *Journal of Combinatorial Theory, Series A*; *SIAM Journal on Discrete Mathematics*; *Utilitas Mathematica*; and several international conferences.

5) Reviewer for Mathematical Reviews.

(3) 研究助成など

- 1) 基盤研究 (C), 組合せ的設計理論を用いた周波数ホッピング系列の構成に関する研究, 140 万円.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：情報セキュリティ

社会工学類：線形代数 I, 線形代数 II, 情報ネットワーク

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：入試実施委員会委員

社会工学類：同窓会設立準備委員

吉瀬 章子

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 論文

- 1) A. Suzuka, R. Miyashiro, T. Matsui and A. Yoshise. “The Home-Away Assignment Problems and Break Minimization/Maximization Problems in Sports Scheduling,” Pacific Journal of Optimization 3(1), 113-133 (2007).
- 2) A. Yoshise. “Interior Point Trajectories and a Homogeneous Model for Non-linear Complementarity Problems over Symmetric Cones,” SIAM Journal on Optimization 17(4), 1129-1153 (2006).
- 3) A.Suzuka, R.Miyashiro, A.Yoshise and T.Matsui. “Dependent Randomized Rounding to the Home-away Assignment Problem in Sports Scheduling,” IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics E89-A(5), 1407-1416 (2006).
- 4) 吉瀬章子. 「成人を迎えた主双対内点法」, オペレーションズ・リサーチ 51(7), 434-440 (2006).

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) A. Yoshise. A Homogeneous Algorithm for Monotone Complementarity Problems over Symmetric Cones, 「最適化 - モデリングとアルゴリズム」統計数理研究所 (2007/03).
- 2) A. Yoshise. Interior Point Methods for Conic Complementarity Problems, 9th International Workshop on High Performance Optimization Techniques, Delft, The Netherlands (2006/06).

(2) 学会活動

- 1) レフェリー: SIAM Journal on Optimization, Journal of Optimization Theory and Applications, European Journal of Operational Research, Optimization Methods and Software, Optimization, IEICE, 日本知能情報ファジィ学会学会誌.
- 2) 編集委員: The Pacific Journal of Optimization
- 3) 審査委員: Young Researchers Prize Committee for ICCOPT II, the 2nd Mathematical Programming Society International Conference on Continuous Optimization (2007).

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 課題番号 18560052 「非線形半正定値計画問題に対する数値的に安定した主双対内点法の開発」研究代表者

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: 数理計画特論 I, 数理計画特論 II, 数理計画実習
社会工学類: 問題発見と解決, 数理計画, 社会工学特設講義 (数学の言葉)

(2) 役職・各種委員会委員

全学: 筑波大学保育所設立準備委員会委員
システム情報工学研究科: FD 委員会委員
社会システム・マネジメント専攻: FD 委員会委員長
社会工学類: 運営委員, 同窓会設立準備委員会委員長

吉野 邦彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 論文

- 1) 吉野邦彦、石岡義則 (2006)、インドネシア・チダノウ流域の土地利用変化と流域環境管理、農業土木学論文集、No.243, pp.95-100
- 2) 嶋田 浩、嶋 栄吉、田中勝千、永吉武志、吉野邦彦、服部俊宏、加藤 亘、渡辺一哉 (2006) : 簡易マルチバンドデジタルカメラによる圃場地理情報のモニタリング、農業土木学会誌、Vol.74, No.11, pp.969-972
- 3) Tsai,F., Lin, E.-K. and Yoshino, K.(2007); Spectrally segmented principal component analysis of hyperspectral imagery for mapping invasive plant species, Int. J. Remote Sensing, Vol.28, Nos.5-6, PP.1023-1039

ii) 著書

- 1) 「農業リモートセンシング・ハンドブック」、秋山侃、石塚直樹、小川茂男、岡本勝男、斉藤元也、内田諭編著、分担執筆、佐藤印刷、2007年3月出版

(2) 学会活動

- 1) 日本写真測量学会誌 編集委員

(3) 研究助成など

- 1) 文部省科学研究費 基盤 A 海外学術調査 80万円
- 2) 文部省科学研究費 基盤 A 一般研究 10万円
- 3) 文部省科学研究費 基盤 C 一般研究 5万円

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：地域資源管理論

環境科学研究科：環境情報調査表現法

芸術研究科（協力教員）：デジタル・アーカイブ（分担）

社会工学類：都市計画実習（分担）、環境科学とリスクマネジメント（分担）、都市データ分析（分担）、都市計画情報実習（分担）

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：FD 委員

社会工学類：都市計画専攻運営委員会委員、実験廃棄物取り扱い責任者

渡辺 俊

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 建築家の継続的関わりによる地方都市景観形成の可能性に関する研究・その 1 地方都市まち並み景観の現状分析及び建築家の設計活動が与える波及効果、日本建築学会大会学術講演梗概集、共著（3名）、2006年9月
- 2) デジタル写真測量を用いた3DCG都市モデルによる景観シミュレーション つくば市中心地区を事例として、日本建築学会大会学術講演梗概集、共著（2名）、2006年9月
- 3) 公共建築の設計における住民参加の手法とプロセスの検証 邑楽町役場庁舎等住民参加型設計者選定住民参加型設計提案協議を事例として、日本建築学会大会学術講演梗概集、共著（2名）、2006年9月
- 4) 東アジアにおける首都の近代化と都市保存、国際シンポジウム論文集、編集、2006年12月
- 5) デザイン・情報・記述、日本建築学会第26回情報・システム・利用・技術シンポジウム研究協議会資料、単著、2006年12月
- 6) GIS教育のためのe-learningシステムの開発、地理情報科学の教授法の確立 - 大学でいかに効果的にGISを教えるか - 、平成17~20年度科学研究費補助金 基盤研究(A)研究成果中間報告書、筑波大学・大学院生命環境科学研究科、74頁~79頁、単著、2007年3月
- 7) 高校野球出場校の変遷に関する空間分析、平成18年度多目的統計データバンク年報、筑波大学 社会工学系、79頁~95頁、共著（2名）、2007年3月

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会：建築計画本委員会委員、デザイン科学小委員会幹事

- 2) 日本都市計画学会：論文査読委員
- 3) CAADRIA、CAAD Futures：レフェリー

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：地理情報システム特論

環境科学研究科：環境デザイン論

芸術研究科：デジタルアーカイブ

社会工学類：都市空間の計画とデザイン，現代まちづくりの理論と実践，東京の都市学，少子高齢社会における住宅・生活環境システム，都市計画情報実習，アメニティ創造のまちづくり実習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 1年5クラス担任
- 2) コンピュータ委員
- 3) 予算委員

渡邊 真一郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Yonetani, Y., Watanabe, S., & Kanazawa, Y. (forthcoming). On the relationships among organisational family supportiveness, work-family conflict, and turnover intention – Evidence on Japanese men. *International Journal of Human Resources Development and Management*.
- 2) Watanabe, S., & Sunohara, M (2006). For whom do they learn?: A study on salespeople's motive for continuous learning. *Association for Psychological Science Proceedings 2006*, 238.
- 3) Watanabe, S., & Massaki, T (2006). Searching for solutions to reduce employee turnover. *Association for Psychological Science Proceedings 2006*, 349.

(2) 学会活動

- 1) 経営行動科学誌 編集委員，及びレフェリー

(3) 研究助成など

- 1) 文科省科学研究費補助 基盤 (B)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：組織科学特論（組織行動論 ）

社会工学類：経営組織論，社会調査法および実習，少子高齢化社会における労働問題

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：入試実施委員，FD委員，教員業績評価タスクフォース委員

社会工学類：授業評価委員

III. 社会的活動

- 1) CAAAN (Cornell Admissions Ambassador Association Network) 委員

講師

有馬 澄佳

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) S. ARIMA, Y. SATO, T. SAITO, R. PEREZ, Y. ISHII, K. YASUDA, “Distributive and Cooperative Scheduling Considering Multi-Attributed Product-Mix, Feedback Process, and the Dynamic Utility Control in Resource Sharing,” Proceedings of the 15th Annual IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing, 2006.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) SEMICON Japan2006 DFM マネジメントワークショップ (DFM: Design for Manufacturability), 基調講演, “生産の最適化へ #1: EES・APC と DFM/MFD の連携,” 2006 年 12 月.
- 2) D. OHTA, H. Tsukui, T. WATAHIKI, S.ARIMA, “Survey in Field Study of Semiconductor Manufacturing Management System,” Networking session in the 15th Annual IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing, 2006.
- 3) M. IINO, S.ARIMA, “Does your company make the 21st century style? - Motto/slogan/measurement/standard ,” Networking session in the 15th Annual IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing, 2006.
- 4) T. KATO , T. SHIRAKAWA, S.ARIMA “In 21st century, What Kind of Human Resource does your company want?,” Networking session in the 15th Annual IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing, 2006.

(2) 学会活動

- 1) AEC/APC symposium Asia プログラム副委員長 (Vice-Chair) (AEC: Advanced Equipment Control, APC: Advanced Process Control)

- 2) レフリー: International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems.

(3) 研究助成など

- 1) 2006年度システム情報工学研究科 教員当教育研究科研究基盤経費 重点配分(システム情報工学研究科)「同一工程・装置を共有する多品種製品の生産スケジューリングシステム、フィードバック処理を含む工程運用法」(代表者:住田潮教授)。

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: 生産流通情報システム特論, オペレーション管理, 特定課題研究

社会工学類: 経営の科学 I, プログラミング実習(2,3学期), 卒業研究

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科: FD委員, 広報委員

社会工学類: 広報委員, 2年生クラス担任

III. 社会的活動

- 1) 社団法人 電子情報技術産業協会 半導体生産技術専門委員会 客員
- 2) 日本半導体製造装置協会 e-Manufacturing 専門委員会 特別委員

石川 竜一郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 論文

- 1) “Communication Protocols with Belief Messages,” *Theory and Decision*, 61: 63–74, 2006.

- 2) “Equilibrium Refinement Problems in Cheap-talk Games,” with E. Shirataki, 京都大学数理解析研究所講究録, 1488: 186-194, 2006.
- 3) Suggestive dominant strategies in cheap-talk games, with E. Shirataki, Department of Social Systems and Management DP-No.1147, 2006.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) “Revision of Beliefs with Perceived Experiences in Info-memory Protocols,” 早稲田大学 大学院経済学研究科 セミナー, 2006年6月9日.
- 2) “Rational Expectations and Core without Partitions,” Mathematics, Technology and Education, Ibaraki National College of Technology, 5-7 December.

(2) 学会活動

- 1) 学会運営委員 : The 2nd Asian Decentralization Conference, August 18–20, 2006, University of Tsukuba.
- 2) レフェリー : Economic Theory.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

社会工学類 : 微積分 I, 情報リテラシー演習, 社会工学実習

総合科目 : 経済学入門 III

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科 : カリキュラム委員

社会工学類 : 総務委員, 3年次クラス担任

上市 秀雄

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 上市秀雄・楠見孝 生活リスク認知と対処行動 : ニート, 多重債務, 生活習慣病に関する大学生の意識調査, 日本心理学会第70回大会発表論文集, 2006.

- 2) 上市秀雄 犯罪不安研究の最前線：現代の犯罪不安の実情と問題点の再考, 2006.
- 3) 楠見 孝・斎藤貴浩・上市秀雄・栗山直子 進路意思決定における認知感情過程:高校から大学への追調査に基づく検討, 日本キャリア教育学会第28回研究大会, 2006.
- 4) 上市秀雄 意思決定スタイルが高校生の進路決定と進学後の感情に及ぼす影響, 平成14 - 17年度科学研究費補助金基盤(B)研究報告書 進路意思決定における認知・感情過程のモデル化(研究代表者:楠見 孝), 2006.

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金基盤(C)(2)「逸脱行動が生起するプロセスと矯正方法に関する研究」(研究代表者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：意思決定分析，行動システム特論
社会工学類：経済行動論，社会経済システム情報演習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 広報委員
- 2) 学生相談室担当

岡田 幸彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 岡田幸彦 [2007] 「サービス原価企画の理論的考察 サービス・マネジメント論を中心として」『日本企業研究のフロンティア 3』107-126頁(第6章) 有斐閣。

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：財務会計学

社会工学類：会計学概論

(2) 他大学における講義

- 1) 非常勤講師 「管理会計論 A」(山梨学院大学)

III. 社会的活動

1) 青少年の育成と空手道の普及

1. 横浜国立大学体育会空手道部 コーチ
2. 関東学生空手道連盟 評議委員
3. 偶成会藤本道場(東京都江東区)指導員

奥島 真一郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) “Multiple Calibration Decomposition Analysis: Energy Use and Carbon Dioxide Emissions in the Japanese Economy, 1970-1995” (共著) Energy Policy, forthcoming.
- 2) “What Are the Sources of Energy Use Change in the Economy? : Multiple Calibration Decomposition Analysis” (共著) Proceedings of the 30th Conference of the International Association for Energy Economics, February 2007.
- 3) “A Decomposition Analysis of Energy Use in the Japanese Economy” (共著) The 12th International Conference on Computing in Economics and Finance (Proceedings), June 2006.
- 4) “Multiple Calibration Decomposition Analysis: Energy Use and CO2 Emission in the Japanese Economy” (共著) Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series No.1152, University of Tsukuba, June 2006.

- 5) “A Double Calibration Approach to the Estimation of Technological Change”
(共著) Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series No.1151, University of Tsukuba, June 2006.

(2) 研究助成など

- 1) 日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究(スタートアップ))(代表)
- 2) 旭硝子財団人文・社会科学系研究助成(共同研究者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：環境リスク管理特論，環境経済学

社会工学類：環境科学とリスクマネジメント，高齢社会における社会経済システム，プログラミング実習，都市計画マスタープラン策定実習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：入試実施委員

III. 社会的活動

- 1) Japanese-German Center Berlin, Robert Bosch Foundation 主催, 第1回 Young Leaders Forum 2006 に日本側代表として参加

大久保 正勝

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 論文

- 1) Okubo, M. “On the Intertemporal Elasticity of Substitution under Nonhomothetic Utility”, Journal of Money, Credit, and Banking, forthcoming.
- 2) Okubo, M. “Intertemporal Substitution and Nonhomothetic Preferences”, Economics Letters, forthcoming.

- 3) Okubo, M. “Estimating Euler Equations with the Return on Total Wealth”, Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series No. 1159, University of Tsukuba.

(2) 学会活動

- 1) 日本経済学会秋季大会プログラム委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金 若手研究 (B) (研究代表者)
- 2) 全国銀行学術研究振興財団 2006 年度研究助成 (研究代表者)
- 3) 筑波大学大学院システム情報工学研究科 基盤研究費重点配分 (研究代表者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

社会工学類：社会工学実習，マクロ計量分析，マクロ経済学，21 世紀少子高齢社会における社会工学政策演習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：予算委員，図書委員

社会工学類：カリキュラム委員，学生委員，クラス担任 (1 年次)

近藤 文代

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Kondo, Fumiyo N., Mariko, Nakahara and Haghirian, Parrisa (2006), “What Can be Done to Remind Your Customers to Use Mobile Direct Mail Coupons?” in Proceedings of Management International Conference 2006, pp1187-1197.
- 2) Kondo, Fumiyo N. and Maegawa, Takanori (2006), “Dynamic Multinomial Probit Model” in Proceedings of Tsukuba-Tohoku Joint Workshop on New

Directions Research in Marketing, pp.43-47.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 近藤文代, 前川貴則 (2006年9月6日(水)), Dynamic Multinomial Probit Model, 2006年度統計関連学会連合大会講演報告集, pp.43-44, 東北大学川内キャンパス.
- 2) 加部哲史, 近藤文代 (2006年9月6日(水)), MCMC法による日次売上データ予測モデルの階層ベイズ推論, 2006年度統計関連学会連合大会, 東北大学川内キャンパス.
- 3) 申忠建, 上平安紘, 近藤文代 (2006年11月25日(日)), サービス業に対するモバイルクーポン送信の効果に関する実験, 日本マーケティング・サイエンス学会第80回研究大会, 青山学院大学相模原キャンパス.

(2) 学会活動

- 1) 国際会議 “Tsukuba-Tohoku Joint Workshop on New Directions Research in Marketing” の座長

(3) 研究助成など

- 1) 平成18年度 科学研究費基盤C 200万円: 日次POSデータを用いた重大事件ニュースの効果測定
- 2) 平成18年度 科学研究費基盤B 50万円(分担者): 意思決定主体の異質性を考慮したマーケティング・モデルの開発と応用

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: マーケティング特論, マーケティング・サイエンス
社会工学類: 統計学, マーケティング工学

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科: オリエンテーション委員
社会工学類: 4年生担当, 学生担当委員

齋尾 直子

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 齋尾直子, 長谷夏哉; 都市における児童の居場所づくりの多様化と 安全安心 - 豊かな空間確保 両立についての考察:日本建築学会計画系論文集, 第 614号, 33-39, 2007
- 2) 齋尾直子, 宮川大介; 過疎農村地域におけるスポーツネットワークを通じた地域づくりに関する研究:農村計画学会誌 25 巻論文特集号, 299-304, 2006
- 3) Naoko SAIO; A STUDY ON THE CO-OPERATION AND INTEGRATION OF UNIVERSITY CAMPUSES INTO THEIR SURROUNDING CITY ENVIRONMENT IN SOUTH EAST ASIA: Proceedings The 5th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, 261-268, 2006
- 4) 河田有里, 齋尾直子他; 農産物直売所の運営と地域における役割に関する研究 -つくば市における直売所運営を事例として-:農村計画学会 2006 年度学術研究発表会要旨集, 61-62, 2006
- 5) 徳井由希, 齋尾直子; 公立小中学校における統廃合プロセスと廃校舎利活用に関する研究: 日本建築学会関東支部 2006 年度研究論文報告集, 2007

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会 農村計画委員会 本委員会幹事
- 2) 日本建築学会 木造廃校舎の利活用特別研究委員会幹事
- 3) 日本建築学会 都市計画委員会 キャンパス計画小委員会委員
- 4) 日本建築学会 農村計画委員会 田園空間計画小委員会委員
- 5) 日本建築学会 農村計画委員会 地域組織小委員会委員
- 6) 日本建築学会 関東支部農村建築専門研究委員会委員
- 7) 農村計画学会 評議員
- 8) 農村計画学会 査読委員会委員
- 9) 都市住宅学会 編集委員会委員

(3) 研究助成など

- 1) 平成 17-18 年度科学研究費補助金 萌芽研究(研究代表者)「現代農村地域社会におけるまちづくり活動の機能重視型アソシエーション化に関する研究」
- 2) 平成 17-18 年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(1)(一般)(分担者)「環境配慮型大学キャンパス・マスタープラン創出における都市政策との連携に関する研究」
- 3) 平成 18-20 年度科学研究費補助金 萌芽研究(分担者)「持続的地域再生を目指したコミュニティ・カレッジの役割に関する実証的研究」
- 4) 平成 18-20 年度科学研究費補助金 基盤研究(C)(一般)(分担者)「オールドニュータウンとその周辺住宅地の持続性研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：公共空間計画，地域施設計画演習

社会工学類：社会工学実習，都市空間の計画とデザイン，少子高齢社会の住宅・生活環境システム，現代都市環境論，アメニティ創造のまちづくり実習，総合演習（社会システム分析），社工特設講義（町並みリフォーム演習）

(2) 役職・各種委員会委員

全学：施設計画室員（学生宿舎改善計画 WG 委員），障害学生支援委員会委員，体育センター運営委員会委員

学類・大学院：クラス担任，広報委員会委員，経営政策科学研究科入試実施委員

(3) 他大学における講義

- 1) 大韓民国 漢陽大学校都市大学院 非常勤講師

III. 社会的活動

- 1) 文部科学省平成 18 年度 『先導的の大学改革推進委託事業「今後の「大学像」の在り方に関する調査研究：校地・校舎」』研究会委員
- 2) 茨城県守谷市景観審議会委員
- 3) 講演：知的創発拠点としての大学キャンパスと地域の連携；平成 18 年度文教施設研究会, 2006.7

- 4) 講演：ラーバンデザインがきり拓くもの - 混在・混住から共生の環境へ - ;
2006 年度 日本建築学会大会 農村計画部門研究協議会 2006.9

新谷 由紀子

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 新谷由紀子, 菊本虔「大学と企業との共同研究における発明者の特定と特許出願の際の持分の認定に係る実態と問題点に関する実証的研究」2005 年度筑波大学システム情報工学研究科教育研究基盤経費重点配分プロジェクト成果報告書, 2006.
- 2) Shinya, Y. and Kikumoto, H., Historical Consideration of University-Industry Cooperation in Japan, and the Problems and Prospects of Cooperation, ISAS, 10(1), pp.7-10, 2006.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 新谷由紀子, 菊本虔「産学連携活動の評価のあり方に関する検討」研究・技術計画学会第 21 回年次学術大会講演要旨, pp.308-311, 2006.

II. 教育・業務活動

(1) 役職・各種委員会委員

産学リエゾン共同研究センター：運営委員会委員

八森 正泰

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 論文

- 1) Masahiro Hachimori and Kenji Kashiwabara, On the topology of the free complexes of convex geometries, Discrete Mathematics **307** (2007), 274-279.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Masahiro Hachimori and Kenji Kashiwabara, On the topology of the free complexes of a convex geometry, Workshop on Geometric and Topological Combinatorics, Universidad de Alcala, Alcala de Henares, Madrid, Spain, 2006.08.29-09.05.
- 2) 八森正泰, 単体的複体の分割について, 日本応用数理学会 2006 年度年会, 筑波大学, 2006 年 9 月 16-18 日.
- 3) 八森正泰, 凸幾何の特性多項式の計算, RIMS 短期共同研究『グラフの木に関する共同研究』, 京都大学数理解析研究所, 2006 年 9 月 25-29 日.
- 4) 八森正泰, 3 次元球面の組合せ的性質と結び目の関係, 信州大学理学部数理・自然情報科学教室 談話会, 信州大学理学部, 2006 年 11 月 14 日.
- 5) Masahiro Hachimori, Orientations on simplicial complexes and cubical complexes, IBARAKI KOSEN Workshop: Mathematics, Technology and Education, 茨城工業高等専門学校, 2006 年 12 月 5-7 日.
- 6) 八森正泰, 単体的複体の分割可能性について, 第 7 回組合せ論ヤングセミナー, 九州大学西新プラザ, 2006 年 12 月 12-14 日.
- 7) 八森正泰, セル複体の組合せ論とトポロジースの組合せ論入門, 第 3 回組合せ論若手研究集会, 慶応大学理工学部, 2007 年 2 月 7-8 日.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：情報基礎数理特論

社会工学類：情報リテラシー，社会工学実習，情報技術実験

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：コンピュータ委員，防災隊

社会工学類：コンピュータ委員，入試実施委員

原田 信行

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 原田信行, 「小規模企業の退出」, 橘木俊詔・安田武彦編 『企業の一生の経済学』 第7章, pp. 227-255, ナカニシヤ出版, 2006.
- 2) Honjo Y. and N. Harada, “SME Policy, Capital Structure and Firm Growth: Evidence from Japan”, Small Business Economics 27 (4-5), pp. 289-300, 2006.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 原田信行, 「新企業の人材確保」, 日本経済学会 2006 年度秋季大会.

iii) その他

- 1) 原田信行, 「中小企業の景況感」, 『日経研月報』 第 335 号, pp. 14-20, 日本経済研究所, 2006.
- 2) 原田信行, 「中小企業の景気と景況感」, Department of Social Systems and Management Discussion Paper No. 1153, University of Tsukuba, 31 pages, 2006.
- 3) 原田信行, 「新企業の人材確保 - 事業所・企業統計調査と新企業調査の個票分析 - 」, 『中小企業総合研究』 第 6 号, pp. 1-20, 中小企業金融公庫総合研究所, 2007.

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金, 若手研究(B), 「中小企業の資金調達環境と政策のあり方」.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：計量経済学実習，計量経済学 II

社会工学類：金融論，統計学 I

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：入試実施委員

社会工学類：クラス担任，学生委員

藤井 さやか

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Sayaka FUJII, Tomokazu, ARITA, Kenjiro, OMURA, 2006, The Impact of the "Urban Renaissance" Policy in Japan The Analysis of Deregulation in the Building Standard Law of Japan, Proceedings of the International Symposium on City Planning 2006.
- 2) Ping-li CHEN, Sayaka, FUJII, Tomokazu, ARITA, Kenjiro, OMURA, 2006, The Constraints on Married Women's Everyday Lives in Time and Space in Taipei- from the Viewpoint of the Preparation of Meals, Proceedings of the International Symposium on City Planning 2006.
- 3) 市川美穂子・大村謙二郎・有田智一・藤井さやか(2006)「地方都市における医療施設の新規立地による周辺影響と立地誘導の方向性」都市計画論文集 41-3, pp.803-808.
- 4) 阿藤卓弥・大村謙二郎・有田智一・藤井さやか(2006)「首都圏郊外における鉄道駅前商業集積の停滞実態とその課題」都市計画論文集 41-3, pp.1037-1042.
- 5) 太田尚孝・大村謙二郎・有田智一・藤井さやか(2006)「旧東独都市における総合的市街地再生の試み-チューリンゲン州エアフルト市の「社会都市 Soziale Stadt」に注目して-」都市住宅学 55号, pp.58-63.
- 6) 村本浩一・鶏内久之・仲村隆・蛭田晃生・藤井さやか・有田智一・大村謙二郎(2006)「企業城下町における郊外戸建住宅地の課題と再生の方向性-日立市におけるケーススタディ-」都市住宅学 55号, pp.64-69.

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会法制委員会集団規定の性能規定化問題検討小委員会委員
- 2) 日本都市計画学会国際委員会委員
- 3) 日本都市計画学会都市計画制度研究会委員

(3) 研究助成など

- 1) 平成 18 年度科学研究費補助金若手研究 (B)(研究代表者)、萌芽研究 (研究分担者)
- 2) 財団法人土地総合研究所平成 18 年度土地関係研究推進事業 (研究代表者)
- 3) 土浦市大和北地区再開発プロジェクト (研究分担者)
- 4) 財団法人土地総合研究所委託研究 (研究分担者)

(4) その他

- 1) 平成 17 年度日本都市計画学会論文奨励賞 受賞

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：都市計画理論特論

環境科学研究科：環境総合実習

社会工学類：フレッシュマン・セミナー，Introduction to Urban and Regional Planning，都市と地域の経営・行政論，都市計画実習，高齢社会における社会経済システム，都市計画事例講義および実習

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 大学院オリエンテーション委員
- 2) 短期在学プロジェクト・潜在的な需要者調査グループ

III. 社会的活動

- 1) 守谷市総合計画審議会委員
- 2) 渋谷区まちづくり審議会土地利用専門部会専門委員
- 3) 目黒区都市計画審議会景観専門部会委員
- 4) 神奈川県土地収用事業認定審議会委員
- 5) 渋谷区都市計画審議会専門委員

水野 誠

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 水野誠, 日本人の階層帰属意識とその生活・消費意識へのインパクト, 消費者行動研究, 13(1), 57-77, 2006.
- 2) 水野誠, ロングテールはマーケティングをどう変えるか? 情報処理, 47(11), 20-26, 2006.
- 3) Mizuno, Makoto, and Takahiro Hoshino, Assessing the Short-term Causal Effect of TV Advertising via the Propensity Score Method, Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series, No.1162, University of Tsukuba, 2006.
- 4) 水野誠, 桑島由芙, ものづくり発想のブランド戦略 マツダの取り組み, ものづくり経営学 (藤本隆宏編著), 光文社, 97-114, 2007.
- 5) 水野誠, 飯塚貴之, ネットワーク特性を考慮した情報伝播プロセスの分析: 知名と忘却の効果, 人工知能学会研究会資料, SIG-KBS-A604, 91-97, 2007.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) 芳賀麻誉美, 水野誠: 消費者言語に基づく多段階選択プロセスの分析 グルーピング評価グリッド法の選択モデリング, 第32回消費者行動研究コンファレンス. (2006/6/17)
- 2) 水野誠, 星野崇弘: TV 広告の購買に対する短期効果の傾向スコア法による検証, 日本マーケティング・サイエンス学会第79回研究大会. (2006/6/25)
- 3) Mizuno, Makoto, Shoichiro Inoue, and Masami Noguchi, Emergence of the Leader-Follower Structure among Consumers: What type of consumers would be most influential in the marketplace?, The First World Congress on Social Simulation (WCSS06). (2006/8/23)
- 4) 水野誠, 濱井脇, 岡平祐介, 澤井大樹, 西山直樹: 小売店舗内回遊行動と購買に関するモデル分析 - 人流計測データの解析の試み, 日本マーケティング・サイエンス学会第80回研究大会. (2006/11/25)
- 5) Mizuno, Makoto, Mayomi Haga, and Hotaka Katahira: Preference Dynamics: How Intra- and Interpersonal Variations in Consumer Preference Will Change with Experience, Tsukuba-Tohoku Joint Workshop on New Directions of Research in Marketing. (2006/12/15)

- 6) 水野誠, 飯塚貴之, ネットワーク特性を考慮した情報伝播プロセスの分析, 人工知能学会知識ベースシステム研究会. (2007/3/30)

(2) 学会活動

- 1) 経営情報学会誌, 日本マーケティング・サイエンス学会誌のレフェリー
- 2) International Meeting of Psychometric Society 2007 の組織委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)「消費者選好の形成と変化に関する研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：マーケティング, MBA-MPP 演習

社会工学類：マーケティング, マネジメント実習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：三専攻合同大学院-学類連携TF, 同・短期博士コースTF

社会工学類：入試実施委員, 同窓会設立準備委員

(3) 他大学における講義

- 1) 県立長崎シーボルト大学・非常勤講師(情報経営論)
- 2) 東京工業大学経営システム工学科・非常勤講師(マーケティング管理)
- 3) 東京工業大学・大学院経営工学専攻・非常勤講師(マーケティング)

III. 社会的活動

- 1) 日本能率協会「新商品開発とマーケティング・リサーチ」講師
- 2) 特定非営利活動法人グローバルビジネスリサーチセンター研究員
- 3) 計測自動制御学会, 情報処理学会での招待講演

山鹿 久木

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Mitsuhashi, Hitoshi & Hisaki Yamaga (2006), “The market and learning structures for gaining competitive advantage: An empirical study of two perspectives on multiunit-multimarket organizations”, *Asian Business & Management* 5, pp.225-247.
- 2) Masayuki Nakagawa, Makoto Saito, and Hisaki Yamaga (2007), “Earthquake risks and housing rents: Evidence from the Tokyo Metropolitan Area,” *Regional Science and Urban Economics* 37, pp.87-99.
- 3) 沓澤隆司・山鹿久木・水谷徳子・大竹文雄 (2007), 「犯罪発生の地域的要因と地価への影響に関する分析」, 『日本経済研究』 No.56, pp.70-91.
- 4) Shinichiro Iwata and Hisaki Yamaga, (2007), “Resale Externality and Used Housing Market”, *Real Estate Economics* 35, pp.331-347.
- 5) Masayuki Nakagawa, Makoto Saito, and Hisaki Yamaga (2007), “Earthquake risks and land prices: Evidence from the Tokyo metropolitan area,” *Japanese Economic Review*, forthcoming.
- 6) 大竹文雄・山鹿久木 (2006), 「定期借家の実証分析(上)」, 『定借協だより』 No.15, pp.2-5.
- 7) 大竹文雄・山鹿久木 (2007), 「定期借家の実証分析(下)」, 『定借協だより』 No.16, pp.4-7.
- 8) 山鹿久木 (2007), 「日本の長時間通勤」, 『日本労働研究雑誌』 No.561, pp.74-76.
- 9) 山鹿久木 (2006), 「通勤の時間と疲労費用の測定と混雑料金の導出」, 『シリーズ現代経済研究 都心回帰の経済学 集積の利益の実証分析』 八田達夫 編, 日本経済新聞社, pp.147-164.

(2) 学会活動

- 1) 都市住宅学会 (関東支部常議委員、総務企画委員、編集委員)
- 2) 日本経済研究、都市住宅学、不動産研究、応用地域学研究 (レフェリー)

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費（若手研究(B)、基盤研究(C)）
- 2) 損保ジャパン寄付講座（東京大学）
- 3) 大林都市研究振興財団研究助成

(4) その他

- 1) 学会賞 日本不動産学会賞論説賞 受賞（2006年5月）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：都市成長管理論演習，プロジェクトの評価とファイナンス，環境経済評価論

社会工学類：微積分Ⅱ，都市と地域の経営・行政論，都市地域経済学演習，住宅・生活環境システム

(2) 役職・各種委員会委員

- 1) 防災隊員
- 2) 学類予算委員
- 3) 学類図書委員

(3) 他大学における講義

- 1) 国土交通大学校
- 2) 東京工業大学

III. 社会的活動

- 1) 住宅経済研究会 研究委員（（財）日本住宅総合センター）
- 2) 都市住宅事業研究会 研究委員（国土技術研究センター・都市住宅学会）

吉田 謙太郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および論文

- 1) Yoshida, K. and K. Demura, “Stated Preference Approaches to Value Environmental Benefits of Local Environmental Taxes.” *International Journal of Ecological Economics & Statistics*, 5(S06), pp.41-50, 2006.
- 2) Yabe, M. and K. Yoshida, “Use of Stated Preference Methods for Environmental Payments in Japan: Comparison of Contingent Valuation Method and Choice Experiments.” *Quarterly Journal of International Agriculture*, 45(4), pp.437-453, 2006.
- 3) Hu, W., K. Chen and K. Yoshida, “Japanese Consumers’ Perceptions on and Willingness to Pay for Credence Attributes Associated with Canola Oil.” *Journal of Agricultural and Applied Economics*, 38(1), pp.91-103, 2006.
- 4) 吉田謙太郎「外来生物法と規制影響分析に関する考察」『環境経済・政策学会年報』11, pp.244-259, 2006.
- 5) 寺田憲治・吉田謙太郎「農地が有する食料安全保障機能の経済評価」『農業土木学会論文集』第246号, pp.57-62, 2006.
- 6) Zhai, G., T. Sato, T. Fukuzono, S. Ikeda, and K. Yoshida. “Willingness to Pay for Flood Risk Reduction and its Determinants in Japan.” *Journal of the American Water Resources Association*, 42(4), pp.927-940, 2006.
- 7) 栗山浩一・寺脇拓・吉田謙太郎・興梠 克久「コンジョイント分析による森林ゾーニング政策の評価」『林業経済研究』52(2), pp.17-22, 2006.
- 8) 吉田謙太郎「生態系の経済評価」(環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』有斐閣) 174-175, 2006.
- 9) Yoshida, K. and S. Kanai, “Estimating the Economic Value of Improvements in Drinking Water Quality Using Averting Expenditures and Choice Experiments.” *Multi-level Environmental Governance for Sustainable Development Discussion Paper No.07-02*, pp.1-16, 2006.
- 10) 吉田謙太郎「農林漁業の多面的機能とその支援方策の特徴と課題」『北日本漁業』第34号, pp.35-44, 2006.

ii) 学会等での口頭発表・講演等

- 1) Yoshida, K. and S. Kanai, “Valuing Drinking Water Quality Using Averting Expenditures and Choice Experiments.” The Ninth Biennial Conference of the International Society for Ecological Economics on Ecological Sustainability and Human Well-Being, December 2006.
- 2) 寺田憲治・吉田謙太郎「農地が有する食料安全保障機能の経済評価」農業土木学会大会, 2006年8月.

(2) 学会活動

- 1) 環境経済・政策学会 理事
- 2) 農業経済学会 編集委員
- 3) 農村計画学会 評議員・査読委員

(3) 研究助成など

- 1) 文部科学省科学研究費補助金若手研究 (B), 地方環境税導入のための効率的な意思決定支援手法の研究
- 2) 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B)(1), 循環型社会形成に調和する日本型農業モデルの構築 (分担)
- 3) 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (B)(2), 都市環境創造における政策過程・政策成果と社会的能力に関する研究 (分担)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：環境経済政策学特論

環境科学研究科：循環型社会システム論，環境統計分析法

社会工学類：プロジェクトの評価とファイナンス，都市と環境の経済学，社会調査実習，都市計画マスタープラン策定実習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：社会システム・マネジメント専攻総務委員長

環境科学研究科：カリキュラム委員

(3) 他大学における講義

- 1) 中央大学（非常勤講師）

III. 社会的活動

- 1) 国家公務員採用試験専門試験委員
- 2) (財)リバーフロント整備センター「河川環境整備に関わる CVM を適用した経済評価検討会」委員
- 3) 広島大学大学院国際協力研究科「21 世紀 COE プログラム社会的環境管理能力の形成と国際協力拠点」共同研究者

吉田 友彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Yukihiro SAITO, Katsunori FURUYA and Tomohiko YOSHIDA “Study of Management and Spatial Characteristics of Neglected Land in Settlements in Suburban / Rural Areas -Case Study of Six Settlements in Tsukuba City Ibaraki Prefecture”, Journal of Environmental Information Science, Vol.35 No.5, 2007 年 3 月, pp.157-166
- 2) 齋藤雪彦・吉田友彦「都市近郊集落域における地域住民の就業構造に関する基礎的研究 千葉県大栄町 X 集落を事例として」日本建築学会計画系論文集第 591 集、2006 年 11 月、pp.53-60
- 3) Tae-il KIM and Tomohiko YOSHIDA, “A Study on the Establishment and Functional Characteristics of Health Facilities for the Aged in Japan”, Journal of Architectural Institute of Korea (英語版), June 2006, pp.1-7

ii) 口頭発表及び研究報告その他

- 1) 吉田友彦「東京大都市圏における郊外住宅地の類型とその動向」、人と住まいと社会を考える研究会編「郊外居住の持続性」報告書、2007 年 3 月、pp.18-27
- 2) 中道純子・吉田友彦「山谷地域におけるアパートの居住実態、日本建築学会大会学術講演梗概集、2006 年 9 月、pp.1113-1114

- 3) 西田恵・吉田友彦「東京 23 区における学校跡地の実態とその有効活用に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集、2006 年 9 月、pp.353-354
- 4) 小山雄資・吉田友彦「茨城県日立市における日立製作所社宅の建築概要と立地上の特徴」日本建築学会大会学術講演梗概集、2006 年 9 月、pp.1077-1078
- 5) 吉田友彦・リムボン「建物登記からみる新宿区職安通り地区の韓国系商店の特徴」日本建築学会大会学術講演梗概集、2006 年 9 月、pp.1063-1064
- 6) トウ・イ・金錦順・吉田友彦「従韓国首都的称谓看城市空間的演变」、北京規劃建設(中文)、2006 年 4 月、pp.42-46

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会・建築経済委員会・住宅の地方性小委員会・委員
- 2) 日本建築学会関東支部・住宅問題専門研究委員会・委員
- 3) 日本建築学会・建築経済本委員会・委員

(3) 研究助成など

- 1) (財)国土技術研究センター(国土交通省)受託研究「木更津市における郊外戸建て住宅地の再生・再編のための実態把握等調査業務」(研究代表者)
- 2) 日本学術振興会科学研究費補助金・若手(B)「首都圏郊外部における放棄住宅地の環境管理に関する基礎的研究」(研究代表者)
- 3) 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤(B)(2)「伝統的都市における街区保存手法の日中比較 -北京と京都を事例として-」(研究分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：居住環境計画演習

環境科学研究科：住環境計画論，環境科学実習

社会工学類：土地利用計画・地区整備計画，アメニティ創造のまちづくり実習，社会工学特設講義「町並みのリフォーム演習」，特別聴講学生指導教員等

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：留学生委員会・委員長，短期博士コースTF委員

社会工学類：広報委員会・委員，学生担当委員

III. 社会的活動

- 1) 国土交通省・郊外住宅地等の再生・再編のための空き地空き家の有効活用方策に関する調査検討委員会委員
- 2) NPO法人・西山記念すまい・まちづくり文庫運営委員
- 3) 一級建築士登録（296144号）

渡邊 直樹

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 論文

- 1) “The Shapley Value of a Patent Licensing Game: the Asymptotic Equivalence to Non-cooperative Results,” *Economic Theory* 30, 135-149 (2007), co-authored with Yair Tauman (Tel Aviv & SUNY Stony Brook)
- 2) “Planned Obsolescence by Duopolists: Consumers’ Tolerance and its Welfare Implications,” 第12回ディセントラライゼーション・カンファレンスにて口頭発表、under review
- 3) “Competition among Marketing Channels: Franchise Fee Reconsidered”, under review, co-authored with Tatsuhiko Nariu (Kyoto)

(2) 学会活動

- 1) レフェリー：European Journal of Operations Research, 情報処理学会誌

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費（若手B）
- 2) 電気通信普及財団（研究奨励金）
- 3) 日本経済研究奨励財団（研究奨励金）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：情報科学演習

社会工学類：情報リテラシー演習，統計学 II，プログラミング実習，総合演習（社会システム分析）

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：入試委員，短期終了プログラム TF

社会工学類：2年生担任，入試委員

(3) 他大学における講義

- 1) 東京工業大学社会理工学部 非常勤講師



ANNUAL REPORT 2006 – 2007 No.30

2007年12月発行

発行 筑波大学 社会システム・マネジメント専攻 総務委員会

〒305-8573 茨城県つくば市天王台 1-1-1

TEL 029-853-5182 FAX 029-855-3849

写真 八森正泰・山鹿久木